

基準3 教員及び教育支援者等

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

「II 目的」を達成するため、一般科目には経歴や適正に応じた教育科目を担当する専任教員25名、非常勤講師3名を配置しており、専任教員数は高等専門学校設置基準を満たしている(資料3-1-①-1：一般教員配置状況H24)。

資料3-1-①-1

一般教員配置状況 H24

単位：人

所属	教授	准教授	講師	助教	計
電気電子工学科	5	1	4		10
機械工学科	7	2	1		10
グローバル情報工学科	3	5	2	1	11
一般科目	10	6	5	4	25
非常勤講師					10
兼任講師					5
計	25	14	12	5	71

(出典 教員会議資料)

卒業時に身につけるべき学力や資質・能力の一つに国際性を挙げているため、その実現に向け、英語科目には英語圏出身のネイティブ・スピーカーで、英語を母国語としない人たち向けの英語教授法（Teaching of English to Speakers of Other Languages:TESOL）の修士課程を修了した教員を採用することに努めている（資料3-1-①-2：一般科目教員配置）。また英語科目は1クラス15名程度の少人数教育を行えるように配置している（資料3-1-①-3：時間割）。

資料3-1-①-2

一般科目教員配置

職名	氏名	学位	専門分野	担当科目	備考
教授	向井 守	修士(語学)	英語、TESOL	総合英語、世界事情、日本文化	有(企)、副校長
	大原しのぶ(F)	修士(語学)	英語、TESOL	総合英語、世界事情、英語総合技能、国際英語コミュニケーション、英語資格技術	
	大崎 富雄	修士(文学)	国語、倫理	国語、倫理、日本語スキルズ	
	D. ゲイロード(F)	修士(語学)	英語、TESOL		米国留学中
	壽時 廣	修士(語学)	英語		療養中
	高橋 文雄	工学博士	機械工学	応用物理、(流体力学、エンジニアリングマネジメントb)	有(公)
	瀧本 明弘	修士(教育)	体育	保険体育、	
	中泉 俊一	学士(数学)	数学	基礎数学、線形代数	有(高教)
	原 孝美(F)	修士(教育)	化学	物理・化学	
宮田 一郎	修士(数学)	応用数学	線形代数、応用数学	有(教)	
准教授	宇都宮 隆子(F)	修士(語学)	英語、TESOL	総合英語、英語表現技法、英語コンピュータリテラシー、時事英語	有(大教)
	木原 均	博士(情報)	情報工学	微分積分	
	S. イアン	修士(語学)	英語、TESOL	英語作文技法、英語スキルズ	有(大教)
	中谷 亮子(F)	修士(数学)	数学		産休
	松本 昇久	修士(情報)	情報工学	基礎数学、微分積分、数学特論	有(高教)
	宮野 純光	修士(歴史)	社会	歴史	
講師	S. フォーブス	修士(語学)	英語、TESOL	英語スキルズ、上級英語、国際コミュニケーション、	
	山口 真史	学士(体育)	体育	保健体育	
	山崎 梓(F)	修士(文学)	英語	国語	
	K. ロペス(F)	修士(語学)	英語、TESOL	英語スキルズ、上級英語	
	野木 邦夫	修士(社会)	社会	社会科学	
助教	谷口 航	学士(工学)	土木工学	物理・化学	有(高教)
	N. リー	修士(語学)	英語	英語スキルズ	有(高教)
	L. ネイサン	修士(語学)	英語、TESOL	英語総合技能、英語討議技法、上級英語、英語スキルズ	
	L. ニュン(F)	学士(語学)	英語	英語スキルズ、英語総合技能、上級英語、国際コミュニケーション	有(高教)
兼任講師	松本 美之	学士(航空)	海洋活動	人間と自然	有(官)
	菅原 光彦	学士(航空)	海洋活動	人間と自然	有(官)
非常勤講師	花崎 有紀子(F)	修士(心理)	心理学	心理学	
	三宅 浩史	修士(社会)	哲学	哲学	
	吉本 恵律子(F)	学士(語学)	英語	総合英語、外国事情	大学

(出典 教員会議資料)

時間割

Table with 17 columns (月, T1, M1, G1, T2, M2, G2, T3, M3, G3, T4, M4, G4, D5, M5, C5) and 8 rows (1-8) showing a weekly schedule for Monday.

Table with 17 columns (火, T1, M1, G1, T2, M2, G2, T3, M3, G3, T4, M4, G4, D5, M5, C5) and 8 rows (1-8) showing a weekly schedule for Tuesday.

Table with 17 columns (水, T1, M1, G1, T2, M2, G2, T3, M3, G3, T4, M4, G4, D5, M5, C5) and 8 rows (1-8) showing a weekly schedule for Wednesday.

Table with 17 columns (木, T1, M1, G1, T2, M2, G2, T3, M3, G3, T4, M4, G4, D5, M5, C5) and 8 rows (1-8) showing a weekly schedule for Thursday.

Table with 17 columns (金, T1, M1, G1, T2, M2, G2, T3, M3, G3, T4, M4, G4, D5, M5, C5) and 8 rows (1-8) showing a weekly schedule for Friday.

- D科卒業研究: 直江・松本(給)・南出・土地・藤島・諸谷 柳橋・オガワ
M科卒業研究: 伊藤・杉森・天日・松井・秋山・金井・小間・林
C科卒業研究: 坂倉・今澤・藤澤・館・ソングー

- 英語科: I: イアン F: オプス L: ロベス Le: Lu Luルー N: ノルトン
T-D科: オガワ B: ボラジ
M科: 伊藤・杉森・天日・松井・秋山・金井・小間・林
G-C科: Gb: フルース S: ソングー

Legend for course types: 一般科目(外国人), 電気電子(外国人), 機械(外国人), グローバル情報(外国人), 英語科(日本人), グローバル情報(日本人)

(出典 教務委員会資料)

平成20年度からは、工学を専門とする教員が、工学に必要な数学及び理科科目を担当することが好ましいと判断し、数学に2名、理科に2名の教員を配置している（資料3-1-①-4：一般科目教員配置状況）。

資料3-1-①-4

一般科目教員配置状況

<p>道員指導主事・准教授・博士(情報科学)</p> <p>木原 均 Hitoshi Kihara</p>	<p>■担当科目 微積分Ⅰ・Ⅱ</p> <p>■略歴および専門分野 水巻町立水巻南中学校(福岡県)出身 広島大学学校教育学部中学校教員養成課程卒。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学研究員、研究生を経て、平成20年8月本校講師就任。平成24年准教授。専門は数理論理学。博士論文「Substructural Logics - algebraic study」で学位取得。</p>	<p>■横顔 学生たちの素朴な疑問や問いかけを大切にしており、常に笑顔を忘れないように心がけている。中学時代は勉強嫌いだったが、今では教える立場となり、学生には自信を持ってもらいたいと考えている。</p> <p>■趣味 ドライブ、将棋</p> <p>■近況 金沢は山や海が近く、また文化や歴史が深いので、毎日とても楽しく過ごしています。</p>
<p>准教授</p> <p>松本 昇久 Norihisa Matsumoto</p>	<p>■担当科目 数学特論、基礎数学Ⅱ、微積分Ⅱ</p> <p>■略歴および専門分野 内灘町立内灘中学校出身 金沢大学理学部数学科卒。北陸先端科学技術大学院大学博士前期課程(情報科学)修了。同博士後期課程中退。平成16、17年石川県立内灘高等学校常勤講師、平成17年石川県立中央高等学校非常勤講師を兼務。北陸学院高等学校教諭を経て、平成19年本校講師就任。平成22年准教授。専門は多様体、計算幾何学、アルゴリズム。最短経路探索に関する研究に従事。</p>	<p>■横顔 学部のところは合唱団に所属していたが、ステージ上で歌うだけではなく、演劇にまで駆り出されているらしい。普段の様子と役を演じている様子があまりに異なるため、同じ人とは思えないと言われたことも。</p> <p>■趣味 特にありません。</p> <p>■近況 少しでも数学に興味を持てるように教えることはできないかと悩みながら、日々を過ごしている。数学が単なる計算方法ではなく、抽象世界と現実世界をつなぐための便利な道具であることを伝えたい。</p>
<p>道員指導主事・教授・工学博士</p> <p>高橋 文雄 Takeo Takahashi</p>	<p>■担当科目 流体力学、応用物理Ⅰ・Ⅱ</p> <p>■略歴および専門分野 杉並区立中瀬中学校(東京都)出身 防衛大学校応用物理学科卒。防衛大学校理工学研究科(物理工学)修了。大阪大学研究生。防衛大学校教授。防衛研究所総括主任研究官。陸上自衛隊研究本部主任研究開発官を経て、平成23年本校教授就任。専門は燃焼工学。「乱流予混合火炎の挙動と構造に関する研究」で学位取得。</p>	<p>■横顔 私のモットーは「未来予測は、技術予測から」。1952年に2003年4月7日生まれを想定して放映された鉄腕アトム。そして、今のロボット技術といえば、推して知るべし。高専生が、豊かな創造性を発揮して「ものづくり」に挑戦し、未来に活躍できるエンジニアをめざして力を磨けるよう手助けしたい。</p> <p>■趣味 ドライブ</p> <p>■近況 歴史と伝統の地。金沢での勤務も1年が経ちました。</p>
<p>助教</p> <p>谷口 航 Kou Taniguchi</p>	<p>■担当科目 物理・化学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>■略歴および専門分野 田鶴浜町立田鶴浜中学校出身 東海大学工学部土木工学科卒。石川県立羽咋工業高等学校、石川県立工業高等学校臨任講師を経て、平成22年本校助教就任。</p>	<p>■横顔 普段はマイペースだが好きな事にはこだわる。授業は厳しく、授業以外では楽しく。</p> <p>■趣味 車(ドライブ)、スポーツ、音楽鑑賞</p> <p>■近況 近年、体脂肪が増加し始めているので、定期的な運動を心掛けている。</p>

(出典 学生便覧2012 ティーチングスタッフ2012)

建学綱領の一つ「人間形成」を担う「人間と自然」科目は、穴水湾自然学苑で実施され、ここには学園共通の教員が配置されている。

(分析結果とその根拠理由)

一般科目の担当教員の構成は、高等専門学校設置基準を満たしつつ、教育課程の授業科目構成と比較してバランス良く配置されている。特に英語科目にTESOL修了者を配置し、数学及び理科科目に工学を専門とする教員を配置しており本校の特色となっている。教員は非常勤講師を含め各科目で十分な教育経験と高い専門性を有しており、目的達成のために必要な一般科目の担当教員が適切に配置されている。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

「Ⅱ 目的」の達成に向け、専門科目には経歴や適正に応じた教育科目を担当する専任教員31名、非常勤講師7名を配置しており、専任教員数は高等専門学校設置基準を満たしている(資料3-1-②-1：専門教員配置状況H24)。

資料3-1-②-1

専門教員配置状況 H24

単位：人

所属	教授	准教授	講師	助教	非常勤講師	計
電気電子工学科	5	1	4		3	13
機械工学科	7	2	1		4	14
グローバル情報工学科	3	5	2	1		11
一般科目	10	6	5	4	3	28
兼任講師						5
全体	25	14	12	5	10	71

(出典 教員会議資料)

卒業時に身につけるべき学力や資質・能力の一つに国際性を挙げており、平成20年度より英語で工学を教えることに注力しており、各学科に2名、3学科合計6名を標準として英語圏出身のネイティブ・スピーカー教員を配置し、CLE²プログラムの推進と連携して工学と英語の連携を推進している(資料3-1-②-2：専門科目教員配置状況)。

本校は現場技術者養成を目標としており、教員の専門性という観点の他に産業界の実務経験者による、より実務的な課題や研究に対するアプローチが必要であると認識し、ものづくりの企業経験者を採用し配置している(資料：専門科目教員配置状況)。

資料3-1-②-2

専門科目教員配置状況

科	職名	氏名	学位	専門分野	担当科目	実務経験
電気電子工学科	教授	直江 伸至	工学博士	電気機器	送配電工学、システム設計、創造実験、科学技術史、卒研	
		香林 利男	工学博士	電気電子	電気回路、パワーエレクトロニクス、創造実験、電気法規と施設管理	
		土地 邦生	学術博士	電気物性	電子工学、材料工学、創造実験、コンピュータ、卒研	有(企)
		松本 裕	修士(電気)	電気工学	デジタル回路、制御工学、データ通信ネットワーク、マネージメントエンジニアリングb、卒研	有(官)
		南出 章幸	博士(工学)	計測工学	コンピュータ、情報工学、設計製図、卒研	有(大教)
	准教授	藤島 悟志	博士(工学)	電気化学	コンピュータ、数値計算、アルゴリズム、システム制御、ソフトウェア工学、システム設計、情報工学、卒研	有(大教)
	講師	H. オガワ	学士(電気)	電気工学	コンピュータ、創造実験、卒研	有(企)
		B.オグントインボ	学士(電気)	電気工学	コンピュータ、システム設計、創造実験	有(企)
		諸谷 徹郎	修士(電気)	アンテナ	メカトロニクス、システム工学、電気回路、電子回路、創造実験、卒研	有(企)
		柳橋 秀幸	博士(工学)	生体情報	電気基礎、発変電工学、電子回路、創造実験、卒研	有(官)
	非常勤講師	下谷 俊昭	修士(工学)	電気工学	計測工学、電気磁気学、情報伝送工学	有(専教)
		石黒 泰治	学士(電気)	電気工学	電気機器、(電気電子工学)	有(専教)
		表 義憲	修士(工学)	電気工学	電気磁気学、(電気電子工学)	有(専教)

科	職名	氏名	学位	専門分野	担当科目	実務経験
機械工学科	教授	伊藤 恒平	修士(機械)	制御工学	工業力学、計測制御、創造設計、機械工学演習、科学技術史、卒研	有(官)
		秋山 晃	博士(工学)	材料力学	振動工学、機械材料、メカトロニクス、創造設計、機械工学実験、卒研	有(官)
		杉森 勝	工学博士	材料力学	材料力学、計測工学、先端材料工学、機械工学実験、機械加工、創造実験、卒研	
		天日 三知夫	修士(機械)	摩擦摩耗	熱工学、エネルギー工学、創造設計、機械工学演習、卒研	有(企)
		松井 洋	修士(機械)	材料	情報処理、メカトロニクス、生産システム工学、機械設計、創造設計、卒研	
		金光 学	工学博士	ものづくり研究所		
	准教授	金井 亮	博士(工学)	材料力学	材料力学、情報処理、機械工学実験、創造設計、卒研	有(大教)
		林 道大	博士(工学)	機械設計	エレクトロニクス、機械設計演習、設計システム工学、創造設計、機械工学実験、卒研	有(企)
	講師	小間 徹也	学士(機械)	メカトロ	コンピュータ工学、機械製図、機械工学実験、創造設計、卒研	有(企)
	兼任講師	千徳 英一	工学博士	加工学	機械加工	大学
		十河 憲夫	博士(工学)	システム	メカトロニクス	有(官)
	非常勤講師	榎本 啓士	博士(工学)	熱機関	ピークル工学a	大学
		稗田 登	修士(機械)	熱機関	ピークル工学b	大学
		西田 敬二	学士(機械)	設計工学	創造設計	有(専教)
	天日 啓之	(機械)	加工	創造設計	有(企)	

科	職名	氏名	学位	専門分野	担当科目	実務経験
グローバル情報工学科	教授	元木 光雄	博士(理学)	アルゴリズム	情報・ビジネス英語、情報システム、コンピュータグラフィックス、計算機システム、メディア情報、創造実験、	大学
		今澤 明男	修士(情報)	経営工学	システム開発演習、情報工学演習、情報理論、コンピュータ演習、卒研	有(大教)
		田村 景明	博士(工学)	計算機	メカトロニクス、システム制御、情報処理、数値計算、創造実験	
	准教授	小高 有普	学士(芸術)	工業デザイン	文化・芸術・思想、デザイン概論、エンジニアリングマネジメントa、	有(企)
		B. ゲイロード	学士(経営)	システム	情報・ビジネス英語、英語コンピュータリテラシー、上級英語、ビジネス英語、創造実験	有(企)
		坂倉 忠和	修士(情報)	情報工学	情報処理、計算機システム、マルチメディア、卒研	大学
		藤澤 武	修士(電子)	WEB工学	コンピュータ演習、計算機システム、情報システム、データベース、ソフトウェア工学、卒研	有(企)
		松下 臣仁	修士(語学)	デザイン TESOL	世界事情、英語総合技能、ビジネス英語、英語コンピュータリテラシー、創造実験	
	講師	井上 恵介	博士(情報)	情報工学	システム開発演習、計算機システム、情報数学、創造実験	有(大研)
		館 宜伸	博士(工学)	数理情報	ビジネスシステム、情報処理、コンピュータ演習、創造実験、卒研	有(企)
	助教	R. ソンガー	学士(情報)	ソフトウェア	ビジネスシステム、情報工学演習、情報処理、創造実験、卒研	有(企)

(出典 教員会議資料)

高等専門学校設置基準から判断しても十分な専門科目担当教員を配置しているが、更なる教育支援を図るための教育支援者として、学園の技術職員、大学生のTAやSAを配置している（資料3-1-②-3：技術職員一覧、資料3-1-②-4：TA・SA一覧）。

資料3-1-②-3

技術職員一覧

平成24年度 技術職員一覧

	氏名	職位	所属(役職)
1	米田 悟	主任技師	穴水自然学苑 ハーバー長
2	三井 宏	副技師長	穴水自然学苑
3	内山 利明	主任技師	穴水自然学苑
4	濱田 康司	技師	穴水自然学苑
5	丸田 勝也	技師補	穴水自然学苑
6	浅野 泰樹	上席技師	プロジェクト教育センター 夢考房 課長
7	坂本 巧	主任技師	プロジェクト教育センター 夢考房 技術・教育係長
8	柳浦 正勝	副技師長	プロジェクト教育センター 夢考房
9	塚本 義一	副技師長	プロジェクト教育センター 夢考房
10	今井 悟	主任技師	プロジェクト教育センター 夢考房
11	山岸 進	副技師長	プロジェクト教育センター 夢考房
12	太田 誠鉄	主任技師	プロジェクト教育センター 夢考房
13	高羽 正人	副技師長	プロジェクト教育センター 夢考房
14	吉江 則雄	上席技師	プロジェクト教育センター 夢考房
15	新保 絵理佳	技師	プロジェクト教育センター 夢考房
16	済田 恒正	技師	プロジェクト教育センター 夢考房
17	林 紘孝	技師	プロジェクト教育センター 夢考房
18	平野 徳之	技師	プロジェクト教育センター 夢考房
19	木戸 章平	技師補	プロジェクト教育センター 夢考房
20	大鋸 鐵	上席技師	プロジェクト教育センター スポーツ考房 課長
21	牧口 茂子	主任技師	プロジェクト教育センター スポーツ考房
22	北村 了	副技師長	情報処理サービスセンターシステム部 電子計算機課 課長
23	高島 伸治	上席技師	情報処理サービスセンターシステム部 電子計算機課 係長
24	館 純恵	主任技師	情報処理サービスセンターシステム部 電子計算機課
25	加原 智彦	主任技師	情報処理サービスセンターシステム部 電子計算機課
26	橋本 剛広	技師	情報処理サービスセンターシステム部 電子計算機課
27	安原 卓	上席技師	情報基礎教育研究センター 事務室長
28	坂野 信夫	技師長	情報処理サービスセンターAV室 参事
29	木谷 幸造	副技師長	情報処理サービスセンターAV室 AV室長
30	反園 満	上席技師	情報処理サービスセンターAV室 技術課 課長
31	深川 直弘	主任技師	情報処理サービスセンターAV室 技術課 技術係長
32	前田 宜之	技師	情報処理サービスセンターAV室 技術課
33	小泉 知也	主任技師	情報処理サービスセンターAV室 技術課

(出典 学園人事課資料)

TA・SA一覧

	学生名	専攻所属	卒業年度	担当科目	担当学期
平成19年度 TA採用状況		情報工学専攻1年	平成17年電気工学科卒業	コンピュータグラフィックス	前期・後期
		機械工学専攻1年	平成17年機械工学科卒業	創造実験Ⅲ	前期・後期
		機械工学専攻1年	平成17年機械工学科卒業	マイコン制御	前期・後期
平成19年度 SA採用状況		メディア情報学科3年	平成18年電気工学科卒業	哲学	前期・後期
		機械工学科4年	平成18年機械工学科卒業	情報処理	前期・後期
		機械工学科4年	平成18年機械工学科卒業	コンピュータ演習Ⅰ	前期・後期
		電気電子工学科4年		コンピュータ演習Ⅰ	前期・後期
	情報学科4年	平成16年電気工学科卒業	数値計算	前期・後期	
平成20年度 TA採用状況		機械工学専攻1年	平成18年機械工学科卒業	コンピュータ演習Ⅰ	前期・後期
平成20年度 SA採用状況		建築都市デザイン学科4年	平成18年機械工学科卒業	ピークル工学	12月～2月
		機械工学科4年	平成17年機械工学科卒業	ピークル工学	10月・11月
平成21年度 TA採用状況		機械工学専攻2年	平成18年機械工学科卒業	コンピュータ演習Ⅰ	前期・後期
平成21年度 SA採用状況		機械工学科4年	平成20年機械工学科卒業	創造実験Ⅱ	前期・後期
		機械工学科4年	平成20年機械工学科卒業	ピークル工学	前期・後期
		機械工学科4年	平成20年機械工学科卒業	設計システム工学	前期・後期
平成22年度 SA採用状況		ロボティクス学科4年	平成21年機械工学科卒業	ピークル工学	前期・後期
		ロボティクス学科4年	平成21年機械工学科卒業	情報処理Ⅱ	前期・後期
		ロボティクス学科4年	平成21年機械工学科卒業	設計システム工学	前期・後期
		機械工学科4年	平成21年機械工学科卒業	創造設計Ⅱ	前期・後期
		ロボティクス学科4年	平成21年機械工学科卒業	工業力学Ⅰ	前期・後期
	機械工学科4年	平成21年機械工学科卒業	機械設計演習	前期・後期	
平成22年度 TA採用状況		機械工学専攻2年	平成20年機械工学科卒業	工業力学Ⅰ	前期・後期
平成23年度 SA採用状況		機械工学科4年	平成22年機械工学科卒業	機械製図Ⅱ	前期・後期
		機械工学科4年	平成22年機械工学科卒業	CAD・CAM	前期・後期
		ロボティクス学科4年	平成22年機械工学科卒業	創造設計Ⅱ	前期・後期
		ロボティクス学科4年	平成22年機械工学科卒業	ロボット工学	前期・後期
		ロボティクス学科4年	平成22年機械工学科卒業	創造設計Ⅲ	前期・後期
		ロボティクス学科4年	平成22年機械工学科卒業	ピークル工学	前期・後期
平成24年度 SA採用状況		機械工学科4年	平成23年機械工学科卒業	創造設計Ⅳ	前期・後期
		機械工学科4年	平成23年機械工学科卒業	情報処理Ⅰ	前期・後期
		ロボティクス学科4年	平成23年機械工学科卒業	情報処理Ⅱ	前期・後期
		機械工学科4年	平成23年機械工学科卒業	機械製図Ⅰ	前期・後期
		機械工学科4年	平成23年機械工学科卒業	機械製図Ⅱ	前期・後期
		機械工学科4年	平成23年機械工学科卒業	コンピュータ工学	前期・後期
		応用バイオ学科4年	平成22年機械工学科卒業	ピークル工学	前期・後期
		メディア情報学科4年	平成23年国際コミュニケーション 情報工学科卒業	コンピュータ演習Ⅰ	前期・後期
		メディア情報学科4年	平成23年国際コミュニケーション 情報工学科卒業	コンピュータ演習Ⅱ	前期・後期
	メディア情報学科4年	平成23年国際コミュニケーション 情報工学科卒業	計算機システムⅠ	前期・後期	

(出典 教務委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

専門科目の担当教員の構成は、高等専門学校設置基準を満たしつつ、教育課程の授業科目構成と比

較してバランス良く配置されている。特に各学科にネイティブ・スピーカーの専門教員の配置、ものづくりの企業経験者の配置、学園の技術職員、大学生によるTAやSAの教育支援者を配置しており、本校の特色となっている。教員は非常勤講師を含め各科目で十分な教育経験と高い専門性を有しており、目的達成のために必要な専門科目の担当教員が適切に配置されている。

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

該当無し。

(分析結果とその根拠理由)

該当無し。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

(観点に係る状況)

本校の教員の年齢構成は資料3-1-④-1：教員年齢構成一覧表のとおりであり、平成24年5月1日現在における、専任教員56名の平均年齢は44.8歳である。近年は若手教員の採用を進め、平成18年以降35歳以下の産業界で実務経験のある教員を中心に採用し、教員全体のバランスをとるようにしている(資料3-1-④-2：教員の採用状況)。

資料3-1-④-1

教員年齢構成一覧表(平成24年度5月1日現在)

年齢	人数	割合
20代	7	12.5%
30代	14	25.0%
40代	15	26.8%
50代	7	12.5%
60代	12	21.4%
70代	1	1.8%
合計	56	100%

(出典 学園人事課資料)

教員の採用状況

平成年度	氏名(採用職位)	学歴、学位 略歴、専門	採用時年齢
18	瀧本 明弘(教授)	日本体育大学体育学部体育学科、修士 金沢工業大学助教授、保健体育	47
	伊藤 恒平(助教授)	防衛大学校理工学研究所(航空宇宙工学)、修士 防衛庁技術研究本部第3研究所、制御工学	35
	D. ヒンチー(講師)	セントマイケルズ大学大学院(英語教育)修士課程、修士 ECC英語会話学校講師、英語	28
19	谷合 泰次(教授)	防衛大学校理工学研究所(電気工学)、修士 伊藤忠ソフトウェア、電子材料	56
	小坂 崇之(講師)	金沢工業大学大学院博士課程、修士 金沢工業大学助手、情報工学	32
	松本 裕(教授)	オハイオ大学大学院、修士 防衛庁航空自衛隊幹部学校教官、電気工学	55
	諸谷 徹郎(講師)	金沢工業大学大学院修士課程、修士 リンテック機、電気電子工学	31
	松本 昇久(講師)	北陸先端大学大学院博士課程中退、修士 北陸学院高等学校、情報工学	40
	金井 亮(講師)	金沢大学大学院博士課程、博士 金沢大学非常勤講師、機械科学	29
	山崎 梓(講師)	金沢大学大学院修士課程、修士 石川県立羽咋高等学校非常勤講師、日本文学	26
	川崎 清明(特任講師)	金沢大学理学部(数学)、学士 石川県立鹿西高等学校校長、数学	63
	J. グリーン(講師)	ニューヨーク芸術大学、学士 金沢市ALT、映像工学	29
	K. ホセアン(講師)	サン・ギンクワン大学経営学科 米国S.F.I.T修士課程、修士 ベンジャミンフランクリン技能学校教員、英語	28
20	木原 均(講師)	北陸先端大学大学院博士課程、博士 北陸先端大学研究員、情報科学	30
	小間 徹也(講師)	金沢工業大学機械工学科、学士 パナソニック機、メカトロニクス	42
	元木 光雄(准教授)	北陸先端大学大学院博士課程、博士 北陸先端大学大学院助教	38
	中野 真(講師)	金沢大学大学院博士課程、博士 金沢工業大学マネジメント研究所、経営工学	37
	H. オガワ(助教)	ロチェスター大学工学部、学士 株EMA-OMD、電気工学	26
	R. ジェームス(講師)	オタゴ大学大学院、修士 オタゴポリテク工学部上級講師、機械設計	40
	R. アナスシア(講師)	ロチェスター大学工学部大学院、修士 機械工学	26
	L. ダミーコ(講師)	セントマイケルズ大学大学院(英語教育)修士課程、修士 バーモント州難民定住プログラム教員、英語	29
21	山口 真史(助教)	日本体育大学体育学部体育学科、学士 熊本県立第二高等学校、保健体育	25
	藤島 悟志(准教授)	豊橋技術科学大学大学院博士課程、博士 豊橋技術科学大学助教、機能材料科学	31
	柳橋 秀幸(講師)	金沢工業大学大学院博士課程、博士 防衛省技術研究本部、生体情報工学	30
	S. イアン(講師)	セントマイケルズ大学大学院(英語教育)修士課程、修士 玉川学園グローバル教育センター講師、英語	39
	B. オグトインボ(講師)	ロチェスター大学工学部、学士 株Qoptiq社、電気工学	27
	R. ソンガー(講師)	ロチェスター大学工学部、学士 ランゲージ・インテリジェント社、電気工学	24
	F. フォーブス(講師)	セントマイケルズ大学大学院(英語教育)修士課程、修士 バーモント州ウイスキー高校教員、英語	30
22	谷口 航(助教)	東海大学工学部土木工学科、学士 石川県立工業高等学校臨任教員、土木工学	27
23	高橋 文雄(教授)	防衛大学校理工学研究所、大阪大学研究生、博士 陸上自衛隊研究開発本部、機械工学	55
	宇都宮隆子(准教授)	セントマイケルズ大学大学院(英語教育)修士課程、修士 金沢工業大学講師、英語	41
	K. ロベス(講師)	セントマイケルズ大学大学院(英語教育)修士課程、修士 リマ市語学センター教員、英語	
24	富田 一郎(教授)	金沢大学大学院(数学教育)修士課程、修士 福井高専准教授	47
	中泉 俊一(教授)	富山大学文理学部理学科(数学教育)、学士 石川県立高校校長	59
	小高 有普(講師)	金沢美術工芸大学産業工芸学部産業美術学科、工業デザイン、学士 金沢工業大学非常勤講師、デザインオフィスPASSION	42
	井上 恵介(講師)	北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科、情報工学、博士 北陸先端科学技術大学院大学高信頼性組込システム教育研究センター	33
	N. リー(助教)	セントマイケルズ大学大学院(英語教育)修士課程在学中、 金沢インターナショナルスクール教員、英語	23
	L. ネイサン(講師)	セントマイケルズ大学大学院(英語教育)修士課程、修士 セントマイケルズ大学外国人語学研修アシスタント、英語	25
	L. ニュン(講師)	セントマイケルズ大学大学院(英語教育)修士課程、修士 ベトナムタン・ホア市の中学校の英語講師、英語	30
	J. ハン(助教)	ローズハルマン工科大学(機械工学科)、学士 機械工学 H24.9~	23
	A. ジェームス(助教)	ローズハルマン工科大学(機械工学科)、学士 機械工学 H24.9~	23
	M. ベリー(助教)	ローズハルマン工科大学(情報工学科)、学士 情報工学 H24.9~	23
C. ルボルト(講師)	セントマイケルズ大学大学院(英語教育)修士課程、修士 バーモント語学センター教員、英語 H24.9~	25	

(出典 学園人事課資料)

教育研究の質を高めるため、博士号の学位取得を目指す教員に対しては、クラス担任や部活動顧問を外したり、授業担当時間数を考慮したりするなどの支援を行うと共に、教育研究能力の向上を図るための派遣留学制度を設けている（資料3-1-④-3：派遣留学規程、資料3-1-④-4：派遣留学実績）。

資料3-1-④-3

派遣留学規程

○派遣留学規程

(昭和50年4月1日施行)

改正 昭和56年12月14日 昭和62年4月1日
平成3年4月1日 平成7年4月1日
平成13年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、本学園の発展と充実に資する目的をもって、専任教職員（以下「教職員」という。）を教育研究及び事務能力の向上を図るために派遣留学させる場合の必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程における派遣留学とは、次のとおりとする。

- (1) 特別派遣留学 学園が特に必要と認め、理事長が命じた場合
- (2) 一般派遣留学 教職員の願い出により、理事長が許可した場合

(資格)

第3条 前条第2号の一般派遣留学を願い出ることができる者は原則として3年以上在職した教職員とする。ただし、学歴及び学位取得の必要により理事長が特に認めた場合は除く。

(選考)

第4条 一般派遣留学を希望する者は、所定の手続きを経て理事長まで願い出るものとする。

- 2 理事長は、派遣留学の適否を大学、高専教員にあつては学長、校長並びに事務職員にあつては本部長に諮問した上で許可を決定する。

(期間)

第5条 派遣留学の期間は原則として1か年以内とする。ただし、国内外の大学院等に留学する場合並びに理事長の命による特別派遣留学についてはこの限りではない。

- 2 決定した派遣留学の期間について変更の必要が生じたときは、所属長を通じ理事長の許可を得なければならない。

(就業)

第6条 一般派遣留学の教職員にあつては、就業に支障のない派遣留学を除き留学期間中は休職とする。

(給与)

第7条 派遣留学中の給与の支給は次のとおりとする。

- (1) 特別派遣留学については、原則として給与の全額を支給する。ただし、派遣留学の内容、条件等を勘案し諸手当を調整する。

(2) 一般派遣留学において休職となる者には、休職給として俸給月額、期末手当、勤労手当の各々80%を支給する。ただし、理事長が特に必要と認めた場合は支給率を変更することがある。

(費用)

第8条 学園が支出する特別派遣留学に要する費用は、次の事項を勘案してその都度、理事長が決定する。

- (1) 派遣留学の内容及び期間
- (2) 当該派遣留学に係る補助金、助成金等の有無
- (3) 派遣留学先の経済指標等

(打ち切り)

第9条 派遣留学中の者について派遣留学の継続が不適当と認められる事由が生じたとき、理事長は、その派遣留学の打ち切りを命ずる。

(中断、中止)

第10条 派遣留学中の者が、やむを得ない事情により派遣留学を中断又は中止しようとする場合には、第5条第2項に準じ理事長の許可を得なければならない。

(費用の返還)

第11条 第9条の派遣留学の打ち切りを命じられた者又は第10条の派遣留学の中断、中止が認められた者で、第8条による学園からの費用の支出があった者は、当該費用の全額又は一部を返還しなければならない。

2 返還の額については、その都度理事長が定める。

(帰任後の義務)

第12条 派遣留学を終えた者は、帰任後30日以内に報告書を所属長を通じて理事長に提出しなければならない。

2 派遣留学を終えた者は、引き続き派遣留学期間の2倍に相当する期間を本学園において在職しなければならない。

(在職義務不履行者への措置)

第13条 前条第2項による在職が不履行となる場合は、退職に際して本学園から支出された派遣留学に要した費用を返済しなければならない。ただし、病気、障害等やむを得ない事情により在職が不可能となった場合は、理事長の判断により返済の一部を免除する。

(派遣研修)

第14条 派遣留学に関し、その内容が研修と称することが適当な場合は、条文中に規定される「派遣留学」を「派遣研修」と読み替えることができる。

(取扱要領)

第15条 本規程について実施に必要な事項は取扱要領において定める。

附 則

1 昭和49年4月1日付金沢工業大学留学規程は、昭和50年3月31日限りでこれを廃止する。

2 現に留学中の者については、その取扱いは従前のとおりとする。

3 この規程は、昭和50年4月1日から施行する。

4 この規程は、昭和56年12月14日改正し即日施行する。

5 従前の、「留学規程」、「国外留学に関する取扱い内規」及び「金沢工業大学大学院留学者の学費助成について」は、昭和62年3月31日限りでこれらを廃止する。

6 この規程は、昭和62年4月1日改正し即日施行する。ただし、現に派遣留学中の者については従前のとおりとする。

7 この規程は、平成3年4月1日改正し即日施行する。

8 この規程は、平成7年4月1日改正し即日施行する。

9 この規程は、平成13年4月1日改正し即日施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

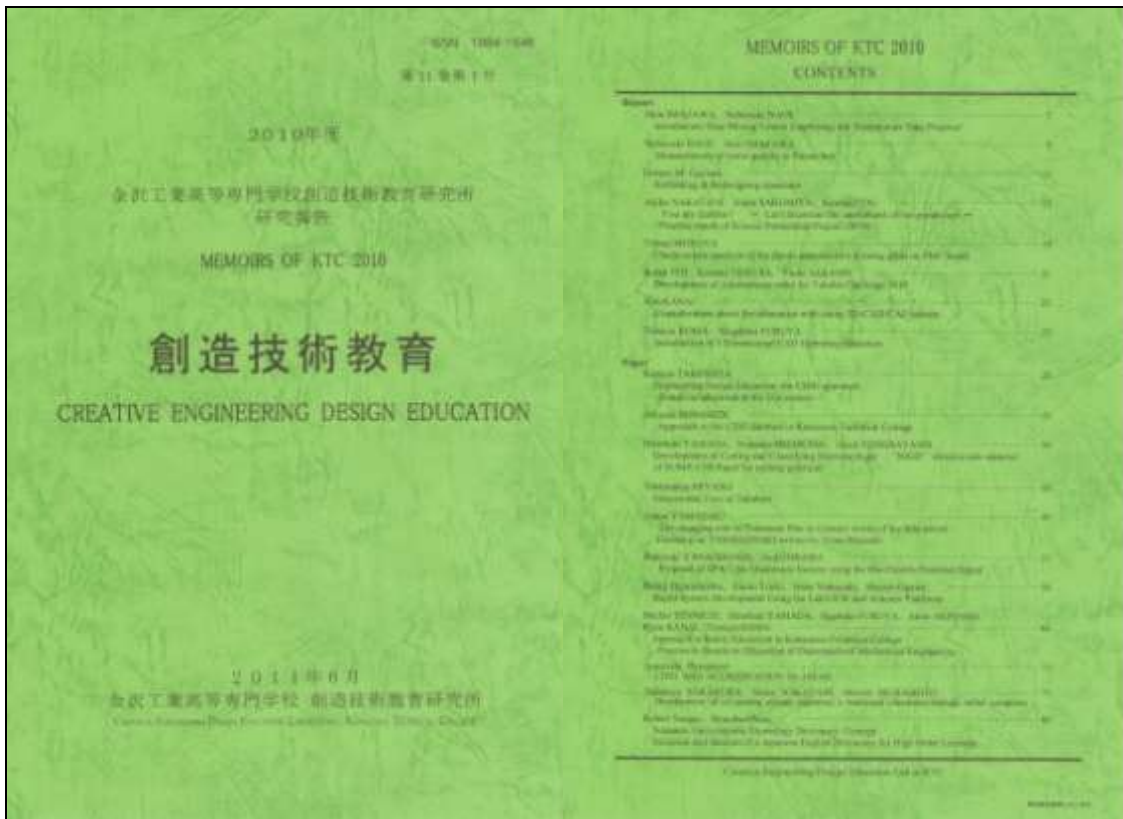
派遣留学実績

氏名	職名	学位取得年月	留学期間	留学先	備考
川崎 順二	助教授	博士、 H20.3	H17.4～H20.3	東京工業大学大学院 博士課程(後期)	社会人入学
伊藤 恒平	教授	留学中	H22.4～H25.3	筑波大学大学院 博士課程(後期)	社会人入学
松下 臣仁	准教授	修士、 H20.5	H23.8～H24.7	イリノイ大学大学院	課程
ハヤト・オガワ	講師	留学中	H23.9～H26.3	ウイスコンシン大学大学院 (マジソン校)修士課程	社会人入学
ドリーン・ ゲイロード	教授	修士	H24.4～H24.9	ミドルベリー大学 カリフォルニア校	社会人入学
山口 真史	講師	留学中	H24.4～H27.3	金沢大学大学院 修士課程	社会人入学
ボラジ・オグント インボ	講師	留学中	H243.4～H27.3	金沢工業大学大学院 修士課程	社会人入学

(出典 人事委員会資料)

教員の教育研究活動の活性化に向け、創造技術教育研究所で報告書の発行、科学研究費補助金の申請の推奨、若手教員研究助成金制度、日本工学教育協会への入会と教育士取得の推奨、澁谷学術文化スポーツ振興財団の産業教育助成に取り組んでいる（資料 3 - 1 - ④ - 5 : 創造技術教育研究所報告書、資料 3 - 1 - ④ - 6 : 創造技術教育成果件数、資料 3 - 1 - ④ - 7 : 科学研究費補助金申請件数・採択件数、資料 3 - 1 - ④ - 8 : 若手教員研究助成金制度募集案内・実績、資料 3 - 1 - ④ - 9 : 日本工学教育協会会員数、資料 3 - 1 - ④ - 10 : 教育士取得数、資料 3 - 1 - ④ - 11 : 澁谷学術文化スポーツ振興財団産業教育助成数）。

創造技術教育研究所報告書



目次		MEMOIRS OF KTC 2010 CONTENTS	
序言	1	序言	1
編集委員会	2	編集委員会	2
編集	3	編集	3
目次	4	目次	4
研究論文目録	5	研究論文目録	5
研究論文目録	6	研究論文目録	6
研究論文目録	7	研究論文目録	7
研究論文目録	8	研究論文目録	8
研究論文目録	9	研究論文目録	9
研究論文目録	10	研究論文目録	10
研究論文目録	11	研究論文目録	11
研究論文目録	12	研究論文目録	12
研究論文目録	13	研究論文目録	13
研究論文目録	14	研究論文目録	14
研究論文目録	15	研究論文目録	15
研究論文目録	16	研究論文目録	16
研究論文目録	17	研究論文目録	17
研究論文目録	18	研究論文目録	18
研究論文目録	19	研究論文目録	19
研究論文目録	20	研究論文目録	20
研究論文目録	21	研究論文目録	21
研究論文目録	22	研究論文目録	22
研究論文目録	23	研究論文目録	23
研究論文目録	24	研究論文目録	24
研究論文目録	25	研究論文目録	25
研究論文目録	26	研究論文目録	26
研究論文目録	27	研究論文目録	27
研究論文目録	28	研究論文目録	28
研究論文目録	29	研究論文目録	29
研究論文目録	30	研究論文目録	30
研究論文目録	31	研究論文目録	31

(出典 創造技術教育研究所資料)

創造技術教育成果件数

創造技術教育 成果件数

年度	学術研究	教育研究	創造教育 掲載件数	年度成果 総件数	関連事項
H12	1	6	7	56	創刊
H13	8	8	16	78	
H14	6	5	11	42	
H15	7	10	17	50	
H16	3	6	9	61	
H17	5	5	10	55	
H18	3	18	21	46	外部6件
H19	5	16	21	59	
H20	4	23	27	58	ISSN登録
H21	8	12	20	94	
H22	9	11	20	62	
H23	8	16	24	27	未登録24

(注: 紹介、展望、解説等を除く)

(出典 創造技術教育研究所資料)

科学研究費補助金申請件数・採択件数

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
申請件数 (A)	11	14	17	9	17
採択件数 (B)	6	4	5	9	8
採択率(%) B/A*100	55	29	29	100	47
採択額(千円)	6,500	7,000	5,400	13,000	11,000

(A)=新規申請+継続

(B)=新規採択+継続

(出典 学園研究支援部資料)

若手教員研究助成金制度募集案内・実績

平成24年 5月22日

教員各位

金沢工業大学 学長 石川憲一
 金沢工業高等専門学校 校長 山田弘文

平成24年度 若手教員を中心とした「研究助成」について（若手教員研究助成制度）

若手教員研究助成制度について、平成24年度募集要項が確定しましたのでご案内いたします。
 対象となる先生方には、積極的にチャレンジしてください。

1. 助成の目的

本学園は、科学研究費補助金（以下、科研費）の獲得を積極的に推進しています。特に、常勤の若手教員を中心に、科研費の獲得について「採択まで、いま一步の状態にある」、「継続的に挑戦しているが、なかなか採択されない」、さらに「チームを組んで実施すると新しい効果や価値が生み出せ、大きな補助金が獲得できる可能性が高い」等というような状態にある研究課題について、「科研費獲得の呼水」として、ひいては本学園の「産学協同の推進」を図るための産学連携プロジェクトに対して研究助成を行います。

2. 助成の形態

- 1) 申請区分：個人申請もしくはチーム（プロジェクト）申請の2種類とします。
- 2) 助成金総額：平成24年度の助成金総額は1千万円を上限とします。
- 3) 助成形態：
 - ①個人申請の年間助成限度額は50万円とし、1年間の助成を行います。
 - ②チーム（プロジェクト）申請の年間助成限度額は200万円とし、最大で2年間の助成を行います。但し、チーム編成は3人以上とし、年度末に継続助成の可否について審査を行います。

3. 平成24年度の申請条件

平成24年度の助成は、平成24年度の科研費採択結果を受けて、以下の条件を満足していることにします。

- 1) 平成24年度の科研費申請をしたが「不採択」となった者。もしくは、過年度に科研費採択を受けているが平成24年度が最終年度となる者。
- 2) 申請者は、原則45才以下。
- 3) 申請は、所定のフォーマット（様式：産連助 2012-01）に、取組の概要、取組の特色、取組の実施体制、取組での期待できる効果と次への展望、取組の子算など、必要事項を簡潔に記入してください。なお、申請においては下記①～③にご留意ください。
 - ①平成24年度科研費申請したが採択されず、再度、平成25年度に科研費申請しようとする取組は、その「改善点」を必ず記入してください。

- ②平成24年度の科研費採択結果のコピー（採択されなかった場合のみ）を添付して申請してください。
- ③既に、平成24年度から複数年間の科研費を継続して受け取ることが決定している場合、平成24年度の個人申請はできませんが、チーム（プロジェクト）申請はできます。

4. 審査方法

審査は、審査委員会で審査します。また、評価は、科研費審査結果を参考にしますが助成の趣旨や目的を考慮した魅力的な研究を優先して評価します。なお、評価のガイドラインは別紙1の通りです。

5. 助成金の使用用途

助成金の使用用途について、原則として科研費ルールを適用します。但し、研究設備の購入に係る工事費等が発生する場合は、事前相談と共に助成金から支出するものとします。その他、ご不明な点は、産学連携機構事務局 研究支援部 諸谷 (k-moroya@neptune.kanazawa-it.ac.jp) までお問い合わせください。

6. 募集スケジュールと結果報告（24年度予定案）

- ・平成24年5月16日 研究支援機構運営委員会で募集要項確認
- ・平成24年5月21日 公募説明会（17時から：21号館502室）
- ・平成24年5月24日 公募説明会（17時から：21号館502室）
- ・平成24年6月11日 募集の締切
※提出先：研究支援部（当日の17時締切）
- ・平成24年6月末 学長、校長に結果報告、理事長の決済後に決定通知
- ・平成24年7月上旬 助成金交付
- ・平成25年3月31日 当該年度事業終了
- ・平成25年4月下旬 所定様式による結果報告および発表会実施

7. 審査委員会メンバー

審査委員会	委員長	金原 勲
	委員	青木 克比古、大箸 信一、日下 道、竺 寛暁
	＃	松本 裕、花岡 良一、藤本 元啓、山部 昌
	＃	泉屋 利明、谷 正史
	幹事長	村井 好博
	幹事	諸谷 克郎、成田武文

以上

採択実績（金額：円）

氏名	平成21年度	平成22年度	平成23年度
柳橋秀幸	410,000	450,000	
藤島悟志			500,000

（出典 学園研究支援部資料）

日本工学教育協会会員数

資料10

北陸信越工学教育協会・(社)日本工学教育協会会員数内訳

(平成23年5月1日現在)

1. 団体会員・学会会員

支 部 名	北陸信越工学教育協会		(公) 日本工学教育協会			備 考
	企 業	学 校	賛助会員	企 業	学 校	
富 山 県 支 部	16	49	3	1		
福 井 県 支 部	14	70	3		1	3
新 潟 県 支 部	16	83	5			5
石 川 県 支 部	25	75	4			4
長 野 県 支 部	23	78	2	1		2
合 計	94	355	17	2	1	17

2. 学校所属個人会員・一般個人会員

支 部 名	北陸信越工学教育協会		(公) 日本工学教育協会			備 考
	学校所属	一 般	学校所属	一 般	Web(内数)	
富 山 県 支 部	富山大学工学部	71		19		8
	富山県立大学	4		3		0
	富山高専専門学校	25		18		11
	企業・一般		2		2	1
小 計	100	2	40	2	20	
福 井 県 支 部	福井大学工学部	83		27		17
	福井工業大学	10		8		3
	福井工業高等専門学校	17		13		7
	企業・一般					
小 計	110	0	48	0	27	
新 潟 県 支 部	新潟大学工学部	71		22		9
	長岡技術科学大学	28		20		14
	新潟工科大学	41		13		2
	新潟工業短期大学	4		4		3
	長岡工業高等専門学校	4		3		1
企業・一般		1		1		
小 計	148	1	62	1	29	
石 川 県 支 部	金沢大学理工学域	53		53		33
	金沢工業大学	256		256		88
	石川工業高等専門学校	9		9		5
	金沢工業高等専門学校	23		23		14
企業・一般						
小 計	341	0	341	0	141	
長 野 県 支 部	信州大学工学部	48		35		17
	信州大学繊維学部	11		8		6
	信州大学全学教育機構	1		1		0
	長野工業高等専門学校	16		16		7
	企業・一般		5		5	2
小 計	76	5	60	5	32	
合 計	775	8	551	8	249	

資料3-1-④-10

教育士取得数

表4 各地区工教と企業に所属する教育士
(工・技)の認定者数

地区工教名	特別	上級	中級	初級	計
北海道	33	4	2	0	39
東北	38	19	7	0	64
北陸信越	48	69	60	49	226
関東	109	21	10	7	147
東海	29	4	0	0	33
関西	46	11	6	3	66
中国・四国	36	16	6	0	65
九州	53	31	14	1	100
企業	45	41	16	2	104
計	437	216	121	62	844

【平成17年～22年(公社)日本工学教育協会事務局まとめ】

表5 平成22年度に於ける北陸信越工学教育協会
の教育士(工学・技術)の認定者数

高等教育機関名	初級	中級	上級	特別	合計
新潟大学工学部	0	2	7	4	13
長岡技術科学大学	1	2	1	3	7
富山大学工学部	0	0	0	3	3
金沢大学工学部	1	1	4	4	10
福井大学工学部	0	0	1	1	2
信州大学工学部	0	0	0	3	3
富山県立大学	0	0	0	3	3
新潟工科大学	0	0	0	2	2
金沢工業大学	46	50	42	13	151
福井工業大学	0	0	0	0	0
新潟工業短期大学	0	0	2	1	3
長岡工業高等専門学校	0	0	3	2	5
富山高専 (富山工業高専・富山商船高専)	0	0	0	1	1
石川工業高等専門学校	0	1	0	1	2
福井工業高等専門学校	0	1	1	1	3
長野工業高等専門学校	0	0	5	3	8
金沢工業高等専門学校	1	3	3	2	9
北陸先端科学技術大学院大学	0	0	0	1	1
計	49	60	69	48	226

【平成17年～22年(公社)日本工学教育協会事務局まとめ】

(出典 北信越工学教育協会会報第六十号 P. 17)

資料3-1-④-11

澁谷学術文化スポーツ振興財団産業教育助成数

澁谷学術文化スポーツ振興財団 申請・採択状況

申請年度	申請件数	採択件数
H19	2	2
H20	2	
H21	2	2
H22	4	4
H23	4	4
総計	14	12

(出典 学園研究支援部資料)

教員の教育研究の例として、中学生向けに開発したものづくり教育を通じた体験学習は、問題解決的な学習を支援する活動として、科学技術振興機構（JST）のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）に採択されている（資料3-1-④-12：SPP等採択件数）。

資料3-1-④-12

SPP 等採択件数

平成24年 4月5日

サイエンスパートナーシッププロジェクト事業(平成19年度～23年度)

独立行政法人、科学技術振興機構(JST)理数学習支援部の講座型学習活動のサイエンスパートナーシッププロジェクト事業(SPP)および(STT)に対し、積極的の応募し、中学校への地域貢献の重要な企画として実施してきている。その結果をまとめると

平成19年度、SPP応募(4件)および採択(4件)課題

- ①. 講座名「Hand's on で数学を！」 氏家准教授、佐伯教授 TA3名
野々市町立野々市中学校3年17名、2回
小松市立南部中学校3年35名、2回
- ②. 講座名「ロボットを触って遊んで見よう」 直江教授、南出教授 TA4名
野々市小学校5年生と保護者25名 1回
- ③. 講座名「ライン追従型ロボットの設計と製作」 古屋准教授、伊藤准教授 TA3名
金沢市立大徳中学校と北鳴中学校13名 2回
- ④. 講座名「レッツチャレンジロボット設計」 山田校長、香林教授
金沢市立高尾台中学校の情報科学部18名 4回 TA4名

平成20年度、STT(理数系教員指導力向上研修事業(希望型)(1件)及びSPPの応募(3件)と採択(3件)課題、および他機関への講師派遣(1件)

[STT]

- ①. 講座名「構造型部品を用いたロボコン用機構学と、その応用としてのロボコンの実施についての一例」 伊藤准教授、古屋准教授
金沢市、白山市、野々市町教育委員会共催、各中学校技術・家庭教諭23名

[SPP]

- ①. 講座名「簡単機構学でロボコンにチャレンジ」伊藤准教授、古屋准教授 TA4名
金沢市、白山市、野々市町中学生27名
- ②. 講座名「Hand's on で数学を！」 氏家准教授、佐伯教授 TA3名
金沢市立北鳴中学校3年10名、2回
小松市立南部中学校3年28名、2回
- ③. 講座名「レッツチャレンジロボット設計II」 香林教授、小間講師
金沢市立高尾台中学校の情報科学部9名と額中学校5名 4回 TA3名

[中能登町教育委員会のSPP]

- ①. 講座名「ロボットと遊ぼう」 伊藤准教授、古屋准教授、金井講師、小間講師
中能登町立御祖小学校・滝尾小学校・越路小学校の生徒 各TA4名

平成21年度、SPP応募(5件)と採択(3件)課題

- ①. 講座名「はぐるま3分タイマーをつくろう」 伊藤教授、小間講師 TA3名
高尾台中学校情報科学部8名、額中学校8名 3回
- ②. 講座名「はぐるま3分タイマーをつくろう」 古屋教授、金井講師 TA3名
浅野川中学校情報1・2年 12名、3回

- ③. 課題名「模型スターリングエンジンの製作を通してエネルギーや環境問題を学ぼう」 天日教授、原准教授 TA3名
白山市立北沢中学校 7名 4回
- ④. 課題名「Hand'on で数学を」 氏家准教授 作宮教授 TA3名
小松市立南部中学校3年生 30名 3回

平成22年度、SPP応募(6件)と採択(2件)課題、および他機関への講師派遣(1件)

- ①. 課題名「君もガリレオ」 氏家准教授、伊藤教授、作宮教授 TA3名
野々市町立布水中学校3年20名、1年3名 3回
- ②. 課題名「模型スターリングエンジンの製作を通してエネルギーや環境問題を学ぼう」 天日教授、原准教授 TA3名
白山市立北沢中学校1~3年 10名

【小松市立南部中学校のSPP】

- ③. 課題名「Hand'on で数学を」 氏家准教授 作宮教授
小松市立南部中学校3年生 35名 3回 TA3名

平成23年度、SPP応募(3件)と採択(2件)課題

- ①. 課題名「君もガリレオ」 中谷准教授、伊藤教授、谷口助教 TA3名
白山市立光野中学校3年16名、3回
- ②. 課題名「小型模型スターリングエンジンの製作を通してクリーンエネルギーや環境問題を学ぼう」 天日教授、原准教授 TA3名
金沢市立泉中学校科学部1~3年 15名

平成24年度、SPP応募(1件)と採択(0件)課題

- ①. 課題名「関数ミサイル発射」 館 宣伸講師 TA3名
金沢市立浅野川中学校3年10名、3回
* 北鳴中学校3年10名、3回 不採用

(制度が変化したことと、応募教員の諸事情により、新課題1件応募し、不採用)

(集計)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	応募数,採択数	応募数,採択数	応募数,採択数	応募数,採択数	応募数,採択数
理数学習					
支援	4件,4件	3件,3件	5件,3件	6件,2件	3件,2件
講座型学習					
活動					
(SPP)					
理数系教員					
指導力					
向上研修	-	1件,1件	-	-	-
(STT)					
SPPの他機関					
への講師					
派遣	-	1件,1件	-	1件,1件	-

(出典 地域連携教育センター資料)

平成10年に設置した創造技術教育研究所における活動は、「教育論文の業績認定」と相俟って着実に成果を収めている（資料3-1-④-13：教育論文の業績認定）。

資料3-1-④-13

教育論文の業績認定

教員の専門及び教育研究成果一覧

年度	研究						教育						成果 合計	備考
	著書	学術 論文	知財	講演 発表	受賞	小計	教育	学術 論文	知財	講演 発表	受賞	小計		
H19	5	16	2	7	1	31	2	12		12		26	57	
H20		13	1	12		26	3	15		13	1	32	58	ISSN登録
H21		31	3	19		53	16	16		6	3	41	94	
H22		16	1	15		32	10	10		11	2	33	65	
H23		14		4		18	4	3		1	1	9	27	未登録24

(注:紹介、展望、解説等を除く)

(出典 学務会議資料)

教育研究及び学務に関する活動に貢献のあった教職員を表彰する制度として理事長表彰を設けている（資料3-1-④-14：学校法人金沢工業大学表彰規程、資料3-1-④-15：理事長賞実績）。

学校法人金沢工業大学表彰規程

○学校法人金沢工業大学表彰規程

(平成 21 年 7 月 21 日施行)
改正 平成 22 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、学校法人金沢工業大学就業規則（以下「就業規則」という。）第 48 条第 1 項（第 4 号を除く。以下同じ。）に定める教職員の表彰であって、就業規則第 49 条第 3 号から第 5 号に定める種類の表彰に関して必要な事項を定める。

(表彰の基本)

第 2 条 表彰の基準は次のとおりとする。

- (1) 就業規則第 48 条第 1 項第 1 号に定める「天災事故の際、特殊の功労のあった者」とは、次のいずれかに該当する者をいう。
 - ア 災害や事故が発生した際、被害の拡大防止に功労のあった者
 - イ 感染症等が発生した際、感染の拡大防止に功労のあった者
 - ウ 災害、事故又は感染症等が発生した際、迅速な対応により傷病者等の救助等に功労のあった者
 - エ 上記アからウに準ずる功労のあった者
- (2) 就業規則第 48 条第 1 項第 2 号に定める「本法人の危害を未然に防ぎ、犯人の逮捕を容易にさせ、又はこれを逮捕するなどのその功労顕著な者」とは、次のいずれかに該当する者をいう。
 - ア 職務の遂行に当たって、災害や事故の防止又は感染症等の予防に貢献した者
 - イ 犯罪又は事件の防止に努め、本法人の安全・安心に功労のあった者
 - ウ 犯罪又は事件の発生に際し、犯人の逮捕又は特定に功労のあった者
 - エ 上記アからウに準ずる貢献又は功労のあった者
- (3) 就業規則第 48 条第 1 項第 3 号に定める「おう盛な責任観念に徹し、能率の増進を図り、本法人の発展に多大の功労があった者」とは、次のいずれかに該当する者をいう。
 - ア 職務の執行に当たり、有益な発明、考案、改良又は工夫により、業務効率の増進に貢献した者
 - イ 諸経費の節約に努め、本法人の運営費用の削減に貢献した者
 - ウ 業務運営の改善に努め、本法人の運営基盤の充実強化に貢献した者
 - エ 学部、学科等の設置又は改組転換に功労のあった者
 - オ 教育研究組織の改革、教育研究の運営体制の整備等に努め、教育基盤の充実強化に貢献した者
 - カ 教育方法の開発、改善等により、優れた教育実績をあげた者
 - キ 教育研究に関する研究又は調査により、教育研究の充実又は発展に功労のあった者
 - ク 上記アからキに準ずる貢献又は功労のあった者
- (4) 就業規則第 48 条第 1 項第 5 号に定める「社会的に功績があり、本法人の名誉を高めた者」とは、次のいずれかに該当する者をいう。
 - ア 社会活動等において、公共団体等からの表彰等により社会的に高い評価を得た者

- イ 善行により、社会に貢献した者
 - ウ 教育、研究、芸術、スポーツ等における優れた業績が社会的に高い評価を得た者
 - エ 社会人を対象とする教育活動において優れた実績を上げた者
 - オ 上記アからエに準ずる社会的評価又は実績を有する者
- (5) 就業規則第48条第1項第6号に定める「その他本法人が認め、特に一般教職員の模範として推奨すべき業績顕著な者」とは、次のいずれかに該当する者をいう。
- ア 優れた教職員として、学生又は卒業生から高い評価を得た者
 - イ 学生の優れた研究発表等により、学生指導の成果が認められた者
 - ウ 学生の就職又は進学において、学生支援の成果が認められた者
 - エ 学生の修学支援において、高い成果が認められた者
 - オ 学生の免許その他の資格の取得について、高い成果が認められた者
 - カ 人間形成に資する教育活動について、高い教育成果が認められた者
 - キ 国際的に権威を有する学会員等となった者
 - ク 学会等における業績が高く評価され、当該学会等から賞された者
 - ケ 上記アからクに準ずる評価又は実績を有する者

(表彰の手続き)

- 第3条 教職員は、前条各号に定める表彰の基準に適合すると認める者について、別紙様式による表彰推薦書に所要事項を記入のうえ、これを直近上位の管理職者（学部の学科、研究科の専攻、附置研究所等の長に相当する者を含む。）に提出するものとする。
- 2 前項より提出された表彰推薦書は、金沢工業大学の教育職員にあっては学長、金沢工業高等専門学校の教育職員にあっては校長、その他の職員にあっては法人本部長がとりまとめ、人事委員会及び常任理事会に提出する。
- 3 前項の定めによるほか、学長、校長及び法人本部長は、独自に認めるところにより表彰推薦書を提出することができる。

(表彰の決定)

- 第4条 表彰者及び表彰の種類は、人事委員会及び常任理事会の議を経て理事長が決定する。

(理事長表彰)

- 第5条 就業規則第40条第3号に規定する表彰状をもってする表彰は、これを特に理事長表彰という。
- 2 理事長表彰は、理事長が表彰状に代えて表彰記念品を授与することにより行うものとし、あわせて副賞を贈呈するものとする。
- 3 副賞は、賞金10万円とする。ただし、表彰の理由を一にする者が複数あるときは、賞金10万円を均等配分するものとする。この場合において、配分額に千円未満の端数が生じたときは、これを千円とする。
- 4 理事長表彰の授与は、常任理事会において行う。

(特例)

- 第6条 理事長は、特に必要があると認めるときは、就業規則を適用されない教職員についても、この規程を適用して表彰することができるものとする。

(事務)

- 第7条 この規程に定める表彰に係る事務は、法人部人事課が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成21年7月21日から施行し、教職員に対する理事長表彰の取扱いについて（平成13年10月1日実施）は廃止する。
- 2 この規程は、平成22年4月1日から改正施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

理事長賞実績

理事長賞受賞者（高専 平成19年～24年4月）

受賞年月日	対象者			受賞理由
平成19年5月23日	直江伸至	南出章幸	氏家亮子	「サイエンスパートナーシッププロジェクト採択」等にかかわる貢献
	佐伯昭彦	香林利男	伊藤恒平	
	西田敬二			
平成19年11月19日	古屋栄彦	伊藤恒平	山岸徹	文科省ものづくり中核人材養成事業に関する貢献
平成20年1月15日	秋山晃	坂本巧		「自律型ロボット大会」で完走、名声を高める
平成20年6月16日	香林利男	小間徹也	佐伯昭彦	地域連携教育・学生募集基盤醸成・学生の課外活動指導への貢献
	氏家亮子	古屋栄彦	伊藤恒平	
	金井亮	諸谷徹郎		
平成20年10月20日	大慶 清			学生指導(バスケットボール部指導と全国高専大会3位獲得)の成果
平成20年12月8日	ドリーン・G	松下臣仁		英語教育及び学生の高専英語スピーチコンテスト入賞指導に関する貢献
	伊藤恒平			学生筑波チャレンジ(ロボット自動車)入賞にいたる学生指導
	小坂崇之			学生バーチャルリアリティーコンテスト入賞に至る学生指導
平成21年12月7日	天日三知夫	杉森 勝		地域連携活動及びGP事業の活動を重ね国立高専機構理事長賞受賞
	直江伸至	柳橋秀幸		ベスト学生プレゼンテーション賞受賞に至る学生指導
	小坂崇之			国際バーチャルリアリティー大会にて総合優勝賞受賞に至る研究指導
平成22年1月18日	ドリーン・G	松下臣仁	大原しのぶ	英語教育及び学生の高専英語スピーチコンテスト入賞指導等に関する貢献
平成22年3月16日	秋山 晃	作宮和泉	小間徹也	キャリア教育、資格取得、就職指導等に関する貢献
	山崎 梓			国語教育、話し方指導、漢字検定資格取得指導に関する貢献
平成22年7月20日	向井 守	瀧本明弘	香林利男	学生募集に関する貢献
	山岸 徹			
	中沢政幸	宮西瑞子		高等学校修学支援金処理業務に関する貢献
平成22年9月27日	宮野純光	中沢政幸	宮西瑞子	全国高等学校体育大会(ハンドボール)運営に関する貢献
	田村 清			
平成22年10月18日	瀧本明弘	宮野純光	山口真史	部活動指導(ハンドボール)に関する貢献
平成22年11月8日	古屋栄彦	伊藤恒平	金井 亮	北陸地区高専ロボットコンテストの受賞と全国大会出場権獲得に関する貢献
	太田誠鉄	尾角 勝	生島義明	
	東崎信幸			
平成23年2月14日	今澤明男	天日三知夫	秋山 晃	教育及び学務改革における献身的努力と成果に関する貢献
	小間徹也			
	向井 守	瀧本明弘	香林利男	学生募集に関する貢献
	山岸 徹			
平成23年3月14日	南出章幸	天日三知夫	伊藤恒平	学生を前面に出した積極的な広報活動・学生募集に関する貢献
	小坂崇之	中谷亮子		
平成23年12月5日	金井 亮	藤澤 武	陳 瑋	プログラムコンテスト、デザインコンテスト受賞に関する貢献
	玉作昌之			
	伊藤恒平	金井 亮	林 道大	ロボコン指導に関する貢献
	谷口 航			
	太田誠鉄	尾角 勝	生島義明	ロボコン技術指導に関する貢献
平成24年2月20日	元木光雄	藤島悟志	館 宣伸	CDIO理念の実現を目指すグローバル人材育成に関する貢献
	柳橋秀幸			
平成24年3月12日	直江伸至	土地邦生	オグントインボ	本校教育の高付加価値化と改善に腐食し、教育方法の開発、改善等に努力してきた事に関する貢献
	小川隼人			
平成24年4月16日	南出章幸	小高有普		デザインシンキング手法の具体化に関する貢献
	中村純生	竹俣一也		

(出典 高専事務局資料)

学園は、教職員が養育する乳幼児を保育する事業所内保育施設として扇が丘保育園を設置し、教職員等の福祉の増進を図っている（資料 3-1-④-16：金沢工業大学扇が丘保育園規程）。

資料 3-1-④-16

金沢工業大学扇が丘保育園規程

○金沢工業大学扇が丘保育園規程

平成 23 年 4 月 1 日施行

(趣旨)

第 1 条 この規程は、学校法人金沢工業大学管理規則第 30 条の 3 に基づき設置する保育園について必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 保育園は、次世代育成支援対策推進法（平成 15 年法律第 120 号）に基づく学校法人金沢工業大学（以下「本法人」という。）の行動計画に従い設置する事業所内保育施設として、本法人に勤務する教職員等が養育する乳幼児を保育することにより、教職員等の福祉の増進に資することを主たる目的とする。

(名称)

第 3 条 保育園は、金沢工業大学扇が丘保育園と称する。

(定員)

第 4 条 保育園の保育定員は 24 名とし、年齢ごとの内訳は次のとおりとする。

- (1) 0 歳児 6 名
- (2) 1 歳児 9 名
- (3) 2 歳児 9 名

(保育の区分)

第 5 条 保育の区分は、次のとおりとする。

- (1) 常時保育 1 か月以上の利用期間において継続的に実施する保育
- (2) 一時保育 一時的に日時を指定して実施する保育

(利用時間)

第 6 条 保育園の利用時間は、午前 8 時から午後 6 時までとする。ただし、土曜日は午前 8 時から午後 1 時までとする。

(休園日)

第 7 条 保育園の休日は、本法人の休業日に準ずるものとする。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

(分析結果とその根拠理由)

近年、産業界の実務経験のある若手教員の採用を進め、教員の年齢構成は適正なバランスになりつつある。教育研究の質を高めるための派遣留学制度をはじめ、教員の教育研究活動の活性化に向けた

様々な取組が有る。教職員の働き易さを考慮し事業所内保育施設が設置されている。以上のことより、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

観点3-2-①： 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

本校の自己点検評価は資料3-2-①-1：自己点検評価の仕組みのとおり、学生と教員の相互確認、教員の自己点検、学校全体の自己点検の順に3層で行っている。

資料3-2-①-1

自己点検評価の仕組み



これらの情報は教員にとって、また、本校全体にとって、教育改善のための重要な要素になります。学生と教員が相互確認した内容をベースに、各教員は、年度末に1年間の活動について自己点検評価し、「今年度の教育改善成果に関する自己点検評価」を校長に提出します。校長は、それを受けて個別面談を行い、各教員の活動状況全般を確認すると共に、次年度の改善目標について合意形成を図ります。その上で、「教育改善への取組と今年度の目標」を作成し、授業運営の観点から昨年度の実績とその評価および反省の上で今年度の授業改善に取り組んでいます。

一方、各教員が授業において実践した活動内容については、教育成果発表会や、創造技術教育研究所でまとめた教育に関する「創造技術教育」(研究報告書)によって全教員に公開され、個々の教員の優れた教育実践例のノウハウが共有されます。また、多年に渡り継続して行われているFD研修会は、授業の創生工夫を図るものとして定めています。

(出典 学生便覧 2012 P.31)

教育活動全般についての自己及び外部点検評価の結果を確認し、建学の精神に基づく教育活動の活性化となお一層の教育改革の推進に資することを目的に、KTC教育評価委員会を設置している（資料3-2-①-2：KTC教育評価委員会規程）。

KTC教育評価委員会が行う自己点検評価として、教職員と学生によるKTC総合アンケート、学生によるKTC授業アンケート、新入生による新入生アンケートなどを定期的実施しており、教員の教育活動の見直しを行っている（資料3-2-①-3：KTC総合アンケート調査票・結果抜粋、資料3-2-①-4：KTC授業アンケート調査票・結果抜粋、資料3-2-①-5：新入生アンケート調査票）。

資料3-2-①-2

KTC 教育評価委員会規程

○KTC教育評価委員会規程

(平成11年4月1日施行)

改正 平成16年4月1日

(委員会の目的)

第1条 この規程は、管理規則第4条第1項第3号ロに定めるKTC教育評価委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

(委員会の設置)

第2条 委員会は、金沢工業高等専門学校（以下「本校」という。）が実施する教育活動全般についての自己及び外部点検評価の結果を確認することで、建学の精神に基づく教育活動の活性化となお一層の教育改革の推進に資することを目的とする。

(委員会の役割)

第3条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 教務主事及び研究主事
- (2) 学科長
- (3) 校長が指名する者
- (4) 事務局長

2 教務主事は、委員長となり会務を主宰する。

(委員会の運営)

第4条 委員会は、委員長が召集し議長を務める。

- 2 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。
- 4 委員長は、委員会で審議した事項を十年委員会に報告するため、委員会報告を取り纏め校長に提出しなければならない。
- 5 委員長は、委員会報告を校長に提出するにあたり、本校の各種委員会との円滑な連携を図るため、事前に報告内容について学務会議の同意を得なければならない。

(委員会の事務)

第5条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

- 1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成16年4月1日から改正施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

KTC 総合アンケート調査票・結果抜粋

無記名アンケート

KTC総合アンケート 教職員対象

2012年2月

貴校高等をより良くするため、皆さんの意見を聞かせてください。

回答の方法について

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを目的としています。
- 回答は、全てこの用紙に直接記入してください。
- 選択式の質問は、当てはまる回答の番号を○で囲んでください。
- 記述式の質問は、指定の枠内に具体的に記入してください。
- 回答は統計処理しますので外部に回答内容が出ることはありません。また、無記名なので個人を特定して分析することもありません。調査目的以外に使われることはありません。
- 回答が終わりましたら、1層教員室の回収箱にお入れください。
- 回答期限 2月26日(土)までに回収をお願いします。
- お問い合わせは、下記までお願い申し上げます。
企画課の担当 1号館1階 1109室 e-mail: kctc@kctc.ac.jp

■ 貴校高等の授業に関して

(1) 2号館1「授業および学習支援」についてお答えください。

	とてもいい	まあまあいい	普通	まあまあ悪い	とても悪い
1. 授業内容が豊富 (1から5まで) 選択が少なくないですか	1	2	3	4	5
2. 授業内容が面白い (授業への参加へのモチベーション)	1	2	3	4	5
3. 授業内容、授業方法を改善させることが授業生員の成長につながると思う	1	2	3	4	5
4. 卒業生が授業 (1から5まで) に対して満足している	1	2	3	4	5

■ 貴校に関して

(2) 「教員が教育」に関してお答えください。選択が可能なことがあれば、その欄のこともお答えください。自由な回答も受け付けます。他の回答の欄を見ても構いません。

	とてもいい	まあまあいい	普通	まあまあ悪い	とても悪い
1. 授業の準備とフォローには充分な時間を費やしている	1	2	3	4	5
2. 教科書等に十分な時間を費やしている	1	2	3	4	5
3. 授業準備に十分な時間を費やしている	1	2	3	4	5
4. 教員が教壇に立っている時間を費やしている	1	2	3	4	5
5. その他教壇に立っている時間を費やしている	1	2	3	4	5
6. 学校内で専任の教員が不足している	1	2	3	4	5
7. 教員も必要に応じて、他校や他機関から人材を確保している	1	2	3	4	5
8. 業務負担は軽減している	1	2	3	4	5

無記名アンケート

KTC総合アンケート 5年生対象

2012年2月

貴校高等をより良くするため、皆さんの意見を聞かせてください。

回答の方法について

- 回答は、全てこの用紙に直接記入してください。
- 選択式の質問は、当てはまる回答の番号を○で囲んでください。
- 記述式の質問は、指定の枠内に具体的に記入してください。
- 回答が終わりましたら、学生生活室が回収して、高専教員室に回収箱に入れてください。
- お問い合わせは、企画課の担当 1号館1階 1109室 e-mail: kctc@kctc.ac.jp

■ 貴校高等の「授業-教員および学習支援」に関して

(1) 以下の1から、貴校での「授業-教員および学習支援」を次のように評価してください。

	とてもいい	まあまあいい	普通	まあまあ悪い	とても悪い
1. 専門知識の体系的に提供している	1	2	3	4	5
2. 体系知識と応用知識が同時に専門知識の習得に役立っている	1	2	3	4	5
3. 授業内容 (内容、教材、方法) の改善の努力が感じられている	1	2	3	4	5
4. 教壇の授業内容には満足している	1	2	3	4	5
5. 一般教員 (履修担当、履修担当) の授業内容には満足している	1	2	3	4	5
6. 担当教員が授業内容の改善に満足している	1	2	3	4	5
7. ネット上で教員は満足している	1	2	3	4	5
8. ネット上で教員は満足している	1	2	3	4	5
9. オンライン上で満足している	1	2	3	4	5
10. 授業改善の取り組みが感じられている	1	2	3	4	5
11. 高専を卒業するまでが最も長い時間であると感じている	1	2	3	4	5
12. 履修内容が自分の将来への準備に役立っていると感じている	1	2	3	4	5
13. 履修までに自分の履修計画を自分自身で立案できることがあった	1	2	3	4	5
14. 履修するシステムやツールは最新であった	1	2	3	4	5
15. 履修の準備が自分の生活に役立っている	1	2	3	4	5
16. 履修が卒業後の就職に役立つと感じている	1	2	3	4	5

(2) 「サポート」に関してお答えください。

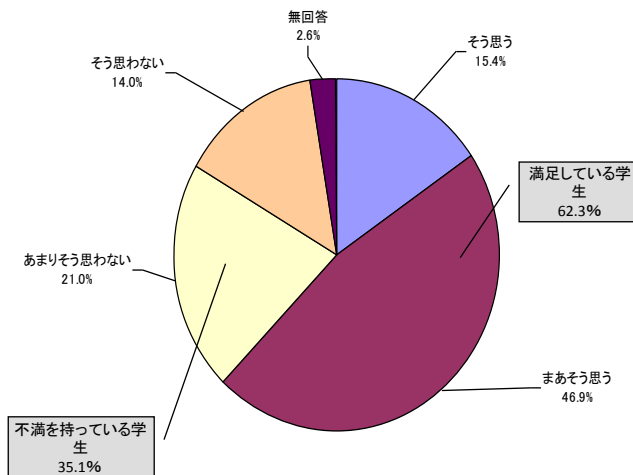
	とてもいい	まあまあいい	普通	まあまあ悪い	とても悪い
1. 「サポート」をしっかりと提供できていると感じますか	1	2	3	4	5
2. 「サポート」の質を高く保つためには改善が必要だと感じますか	1	2	3	4	5
3. 「履修」を「履修」に改善が期待できると感じますか	1	2	3	4	5
4. 「履修」を「履修」に改善が期待できると感じますか	1	2	3	4	5
5. 履修計画が自分の生活に役立っていると感じていますか	1	2	3	4	5
6. 履修計画が自分の生活に役立っていると感じていますか	1	2	3	4	5

<2-1> 金沢高専の総合的な満足度

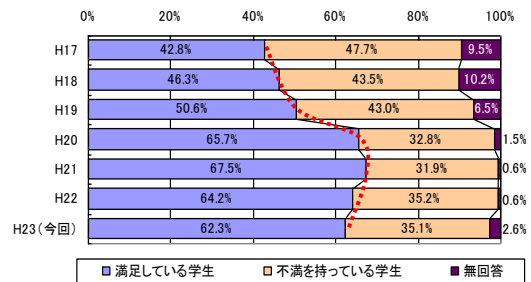
■本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」という問いに関しては、15.4%が「そう思う」、46.9%が「まあそう思う」であり、合わせると62.3%が満足と答えており、不満を持っている学生は35.1%という結果であり、満足している学生の方が27.2ポイント多かった。
- 年度別比較を見ると、「満足している学生」の割合はH22より1.9ポイント減少しており、前回に引き続き前年を下回る結果となっていた。平成20年と平成21年には満足度は非常に高い状態を維持していたが、今回はH20年以降で最も低い結果となった。

■総合的に見て金沢高専に満足していますか？(在校生のみ)



■金沢高専の総合的満足度 年度別比較



■金沢高専の総合的満足度 年度別内訳

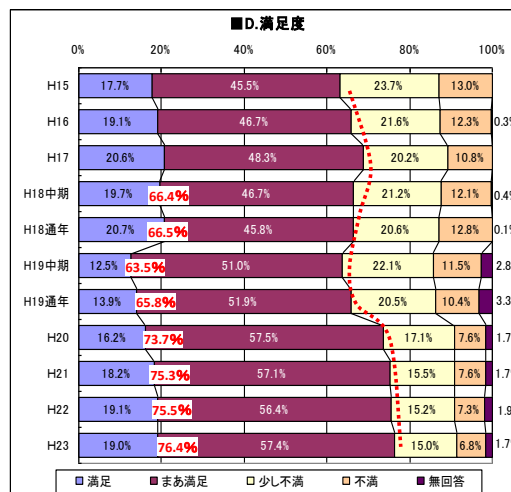
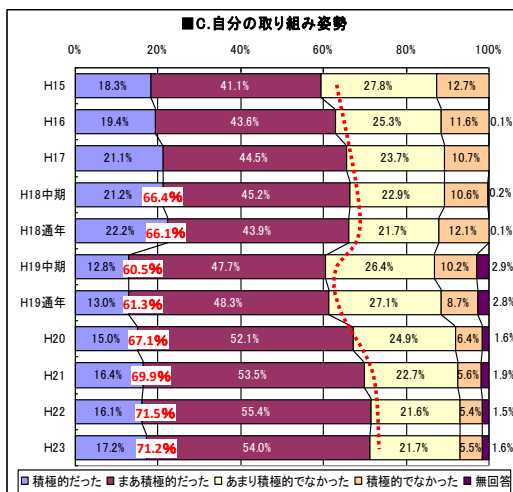
年度	満足している学生の合計 (%)	比較	不満を持っている学生の合計 (%)
H17	42.8%	<	47.7%
H18	46.3%	>	43.5%
H19	50.6%	>	43.0%
H20	65.7%	>	32.8%
H21	67.5%	>	31.9%
H22	64.2%	>	35.2%
H23(今回)	62.3%	>	35.1%

(出典 KTC 教育評価委員会資料)

KTC 授業アンケート調査票・結果抜粋



- 「C. 自分の取り組み姿勢(あなたは、この授業に対して積極的に取り組みましたか?)」では、「積極的だった」が17.2%、「まあ積極的だった」が54.0%であり、合わせると71.2%が授業に積極的に取り組んだと答えていた。
- 前項の「興味」と同様にH19より継続的に積極的な学生が増加していたが、今回は前回を0.3ポイントとわずかに下回っていた。ただし、「積極的だった」だけを見ると前回を1.1ポイント上回っていた。
- 「D. 満足度(あなたはこの授業に満足していますか?)」では、「満足」が19.0%、「まあ満足」が57.4%であり、合わせると76.4%が授業に満足していると答えていた。
- 以前と比べると、満足しているという学生は前回よりも0.9ポイント増加し、H19から継続的に満足度は上がってきていた。そして、不満を持っている学生は前回より0.7ポイント減少していた。



(出典 KTC 教育評価委員会資料)

新入生アンケート調査票

無回答氏アンケート

金沢高専 新入生アンケート

2012年4月

金沢高専をより良くするため、皆さんのご意見を公開させていただきます。

回答の方法について

- 回答は、全てこの用紙に直接記入してください。
- 選択式の設問は、該当する選択肢の番号を○で囲んでください。
- 記述式の設問は、指定の枠内に具体的に書いてください。
- 回答が終わりましたら、学生代表者が回収して、**重要事項は匿名**に提出してください。
- お問い合わせ：法務部10室（電話1周 1-68室）e-mail: cc-survey@kai.ac.jp

■ はじめに、あなた自身のことに関してお答えします。該当する番号を○で囲んでください。

① あなたの入学した“学科”はどれですか？

1. 電気電子工学科 2. 機械工学科 3. 宇宙・応用機械工学科

② 貴校があなたの就職で活躍させましたか？

1. 無効 2. 有効

③ “一級試験で合格した方のみ”には該当しません。あなたの所属は、貴校のどの専攻で入学しましたか？

1. 専攻した 2. 専攻しなかった

■ 金沢高専の求める人材（アドミッションポリシー）に照してお答えします。

【金沢高専が求める人材（アドミッションポリシー）】

- エンジニアとして貢献出来る人材
- 基礎学力をもち、知的好奇心に満ちた人
- 英語でのコミュニケーション能力を備えた人
- 社会にも積極的に貢献する意欲のある人
- 誠実で、他人と協働することの出来る人

④ あなたの上述、あなたの専攻の専攻（アドミッションポリシー）に照して答えなさい。

1. 答えていた 2. 答えていなかった

(出典 KTC 教育評価委員会資料)

KTC教育評価委員会は各種アンケートによる定期的な自己評価の他に、教育改善提案箱と専用メールアドレスを設置し、随時学生からの改善提案を受け付けている（資料3-2-①-6：教育改善提案箱の提案実績・改善例）。

資料3-2-①-6

教育改善提案箱の提案実績・改善例



(出典：「専」48号P. 40)

改善提案と実施結果（平成23年4月1日～平成24年5月31日）

番号	投書日時	意見の概要（提案者）	採否	伝達日	処置先	伝達手段
1	23.5.15	意見箱設置賛成（学生）	採用	なし		
2	23.10.3	高専祭にアニメ種目を	採用	23.10.4	学生会	口頭伝達
3	同	2・4年度から中間試験を	採用	24.1.13	全校	全校集会説明
4	24.12.17	根本からの改革を求む	採用	24.1.13	全校	全校集会説明
6	同	合同講義室を予約制に	現行			
6	24.4.15	新任教員に対する不満	否定	なし	なし	
7	24.5.10	自販機の価格低減要求	採用	24.5.24	業者	口頭伝達

(出典：校長資料及び教育評価委員会資料のまとめ)

(出典 KTC 教育評価委員会資料)

全教員は「教育改善への取組と今年度の目標及びその成果」を校長に提出し、校長は各教員から提出された報告書や各種アンケート結果を基に評価し、各教員に文書回答あるいは指導を行い、教育活動の改善に努めている（資料3-2-①-7：教育改善への取組と今年度の目標及びその成果・文書回答例）。

KTC教育評価委員会の自己点検評価や、教員からの報告書などを基に、FD研修会を実施し教育改善につなげている（資料3-2-①-8：FD研修会資料）。

校長は、これらの取組により教育改善に関する情報を収集し、KTC教育評価委員会及び学務会議に諮って必要な見直しを行っている（資料3-2-①-9：平成24年度の教育目標における改善提案総括）。

教育改善への取組と今年度の目標及びその成果・文書回答例

教育改善への取組と今年度の目標およびその成果（平成 23 年度）

所 属	職員番号	職 名	氏 名	作成年月日
機械工学科	■	教 授	■	平成 23 年 4 月 12 日

1. 担当科目と担当クラスについて

番号	担当科目名（コマ数）	担当クラス	学期	受講学生数	特記事項
1	特別活動（1）	M2	前・後	39	
2	創造設計Ⅱ（3）	M2	前・後	39	
3	熱力学（2）	M4	前・後	37	
4	エネルギー工学（2）	M5	前・後	37	
5	機械工学実験（3）	M5	前・後	37	
6	卒業研究（6）	M5	前・後	4	
7					
8					
9					

2. 現在の校務分組を記入してください（各委員会の委員、クラス担任・副担、クラブ顧問など）。

番号	校務名	いつから	番号	校務名	いつから
1	クラス担任連絡会（M2担任）	H23.4.1	9		
2	インターンシップ部会	H22.4.1	10		
3	外部評価推進委員会（副）	H23.4.1	11		
4	創造技術教育研究所（所長）	H18.4.1	12		
5	学生募集委員	H18.4.1	13		
6	連携教育部会委員	H21.4.1	14		
7	体験入学部会（主）	H23.4.1	15		
8	写真部顧問	H14.4.1	16		

3. 学外活動について（名称と内容）

①日本機械学会（正会員） ②先端加工学会（正会員） ③日本工学教育協会（正会員）

4. 「わかりやすい授業」の実施に創意工夫している教育方法（授業の作り方、実験するなど授業の展開の仕方、教育機器の使い方、ノートの取らせ方、予習・復習への動機付け、小テストの実施など）について具体的に記入してください。

・インターネット、専門雑誌、学会誌、新聞などから配付資料を作成し、わかりやすい授業に取り組んでいる。
 ・身の回りで起こっている生活に関する演習問題を独自に作成し、これを授業の中で頻繁に取り入れ、問題を解くことによつて、科目の重要性を理解させている。また、科目の重要点を整理した印刷物を作成し、配付している。小テストの回数を多くし、コツコツ学習する習慣を身につけさせることを心がけている。

5. 授業改善を図るために、今年度の重点目標とその達成のための取組を具体的に記入してください。

・創造設計Ⅱにおいて、モノづくりに対する潜在能力を低学年のうちに引き出すために、工作機械（旋盤）と手工具を使つてできるだけ精度の高い実験道具を製作させる。また、創造設計Ⅱで工学の基礎をしっかりと身につけさせる。
 ・創造設計Ⅱでの外国人教員との授業の進め方に工夫をこらし、英語での授業の成果が上がる取り組みを実践する。
 ・小島プレス工業による産学連携教育が2年目なので、講義内容の打ち合わせを密に行い、学生がグローバルな視点で物事を捉えられるようなスケールの大きな講義を目指す。

注) この報告書は、各自の1年間の計画書として4月に作成して校長に提出し、校長のコメントを得た後、各自が保管します。年度末の3月に項目1・2(今年度の教育改善成果に関する自己点検評価)を加筆して校長に提出します。なお、校長との面談にも使用します。

6. 学生の自学自習の習慣付けや学習意欲の向上を図るために実施されている取組を記入してください。

- ・講義の内容に関する演習問題を授業中や宿題として実施する割合を増やし、自学自習の習慣づけに役立てる。また、演習問題は短期間のうちに採点して学生に戻し、授業中に必ず問題を解くための考え方を説明しながら解答し、講義内容の理解を深めさせ、学習意欲の向上に役立てている。また、学生の理解度のチェックにも役立てている。
- ・機械工学実験の中で、学生1人1テーマを与え、5～10分程度の発表を行わせている。学生には関連する参考文献(A3用紙2～4枚程度)を与え、不足分は自分で参考資料を探して、パワーポイント資料を3～5ページ作成して発表を行い、他の学生からの質問に答える。この手法は自発的に問題を解決する能力を身につけるのに役立つ。

7. 「心意かな、創造性にあふれたエンジニアを育成する」ために、授業や課外活動、学生指導等において注力されている点について記入してください。

- ・学生の本来持っている潜在能力を引き出すことと、学生に真の実力と工学センスを身につけさせるため、学生との接触時間を出来るだけ多くすることを心がけている。
- ・授業を活用し、著名人の考え方や信条などの人間性の面と新開発技術などの技術面の両面に関する話題を集め、配布資料を作成し、学生のメンタルな面の充実と、実社会において今技術面で何が起きているかの情報をタイムリーに提供するよう努め、学生の工学に対する興味や関心が薄れないよう指導している。

8. 前年度の授業アンケートや総合アンケートに基づいて、今年度、特に留意される事項を記入してください。

- ・担当科目の内、最も満足度の低い科目は熱力学であり、(満足+まあ満足)はこれまで50～60%であったが、ここ3年間は50%を切っているため、今年度は60%以上を目標に、学生のレベルに合わせて解説していく所存である。
- ・熱力学は目に見えない学問であり、理解しにくいいため、演習問題を多く取り入れるとともに、エネルギーや環境問題の解決に役立つ重要な科目であることを説明しながら、満足度を高めるよう努力する。

9. 授業を進める上でライブラリーセンター、参考書などの施設利用に関してご意見を聞かせてください。

- ・ライブラリー：機械工学実験の課題調査及び卒業研究の参考文献調査に利用。
- ・参考書：創造設計Ⅱで41号館3階実験室、造設計Ⅱの一部、卒業研究で26号館の各種工作機械を利用。
- ・工学設計棟：機械工学実験の内燃機関の性能試験でディーゼルエンジンを使用
これらの設備は、学生の自学自習や実力向上に非常に役立っているため、高専としては大いに活用すべきである。

10. 自由意見（ご提案やご要望など）

- ・アルバイト中心ではなく、学校中心の学生生活に切り替える必要がある。
- ・エンジニアの即として実社会で通用するために、厳しく、そして愛情と情熱を持って学生を育てていく。

11. 校長コメント

教育で必要なものを身に付けさせるには、厳しくすることしか方法はないと考えています。今年は学校の中だるみを懸念しています。良薬は口に苦いことを示さなければならないと感じています。

12. 今年度の教育改善成果に関する自己点検評価

今年度の単独授業はM4熱力学とM5エネルギー工学の2科目を担当した。
熱力学は過去3年間、目に見えないことやエントロピーなどの難解な専門用語が出てくるためか、どうしても学生が理解しにくく、授業アンケートの満足度は50%を切っていた。しかし、今年度は60%以上の満足度を目標に、身の回りで実際に起きている題材から演習問題と宿題を多く作成し、授業に取り組んだ。また、これらの解答や解説を丁寧に実施することを心がけた。その結果、熱力学の満足度は88.6%（満足14.3%+まあ満足74.3%）と過去最高になった。
また、エネルギー工学に関しては、東日本大震災や福島原発事故を例にあげてエネルギーや環境問題の重要性を認識させながら、これらに関連づけた演習問題を作成し、熱力学同様、これらの解答や解説を丁寧に実施することを心がけた。その結果、満足度は91.6%（満足19.4%+まあ満足72.2%）の好結果となった。
これらの科目の満足度は、機械全体や学年全体の結果より好結果であったので、来年度も丁寧に問題の解答や解説を心がけて授業を進めていく所存である。

金沢工業高等専門学校

(出典 学務会議資料)

FD 研修会資料

2010/11/28

**学生が自発的に取り組む授業を
実施するには**

3班 電気電子工学科

iPod touchの導入の検討

- 授業の補助教材
動画、静止画閲覧用端末、グループ作業
- ペーパーレス化
配布資料を電子ファイルで配付
- キャリアデザイン
各科目、資格の仕事との関連を図説

結論：PCの代用としての使い方に留まる


2010/11/28

**学生が自発的に取り組む授業を
実施するには**

機械工学科におけるまとめ

©2017 FORD TL-TRIM

現状把握



各教員は(個人個人が)教材の工夫など、内
発的動機を高める(首)定している(首)

実際には学生から内発的動機の高揚は感じられない

↓

何が原因？

©2017 FORD TL-TRIM

(出典 FD 研修会資料)

平成 24 年度の教育目標における改善提案総括

24. 4. 23

平成 24 年度の教育目標における改善提案総括

校長

(趣旨)

平成 24 年度の教育目標における改善提案を、個人情報に支障があるものを除き、以下の通り集成しましたので連絡します。校長段階で直ぐ処置するものは対策しますが、付随してシステム的に行う方が良いと思われるものもあるので、KTC 教育評価委員会でご討議いただき、ご意見を戴きたく依頼します。

(集成結果) (提案者名を除く)

A 教員

- ・ロボコンのロボットの保存場所を確保できないでしょうか。
- ・体験入学やオープンキャンパス等、現状では参加者数のみを懸念していらっしゃいますが、本来であれば少子化の傾向を考慮して、参加者の受験率を向上させるように内容を検討した方が、学生の質や予算の点からも有効なのではないでしょうか。

(校長意見)

- ロボット置き場は、24 年 9 月に完成する 23 号会を要求中。
- 取り敢えずは学生数が必要であるが、24 年度は少し変わっているとおもう。

B 教員

I think KTC should spend more time at the beginning of the school year (and on an ongoing basis) educating students about "why English is important to their future." Giving students opportunities to listen to former KTC graduates and successful local business people who use English in their jobs and talking to Otago Polytechnic students (via video conference)

(校長意見)

- 修学前のオリエンテーションには時間を掛けている。教育は英語のみでは無いので、バランスある時間配置が必要である。オタゴとの連携教育については、調整が必要で思多雨イアンをご提案願いたい。

C 教員

- ・ 教室天井切り切りの迅速な修理やチャーターティーナーの新調等、教育の基本的な教員の環境整備に一番の圧力をおねがいしたい。・金沢高専校舎が建設された当時の机と椅子の耐用年数が来ているのではないかと、経費と手間がかかっても、3 月の終業式会場に国旗を掲示すべきではないかと。

(校長意見)

- 気がついた場合には代えている。発着者が事務局に連絡する仕組みになっている。

R 教員

I think that the teacher's office needs a new printer. The printer currently being used jams frequently and breaks down too often. This causes a lot of

S 教員

It is frustrating to me as a teacher to be required to sit through long meetings in a language I do not

understand, instead of being offered translation, or documentation regarding presentations/topics in a way that I can understand, contribute, and build on the understandings of the school community. It would be preferable if such meetings were offered in smaller amounts of time and with translation, or smaller groups of staff and followed by a discussion that would allow us greater access to the material. I am proud and excited to be a part of the KTC teaching group, and in order for me to continue to grow as a teacher and be greater connected, to form the bonds necessary for collaboration, it would be advantageous to have more chances to understand and work with my colleagues outside of the English department.

(校長意見)

○英語科で処置していると思う。

○日本には日本の考え方があり、理解していただくことが必要。

(出典 学務会議資料)

これらの活動結果から、平成18年度には国際交流主任と地域連携主任の配置、平成20年度には新任教員とベテラン教員の同室配置、一般教科主任の配置、平成21年度には学生募集委員会、教員室の一部統合、平成23年度には地域連携副主任の配置、平成24年度には副校長の配置、国際交流副主任の配置を実施し、学校運営の円滑化を行った。

(分析結果とその根拠理由)

学校としての自己点検評価の仕組みを有し、KTC教育評価委員会のKTC総合アンケート、KTC授業アンケート、新入生アンケート、教育改善提案箱による自己点検評価の実施、「教育改善への取組と今年度の目標及びその成果」を用いた校長による教員の評価及び指導の実施、授業参観の実施により、多面的な評価が行われている。これらの評価により学校運営の円滑化が図られており、教育改善の適切な取組がなされているといえる。

観点 3-2-②： 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の任用については任用基準に基づき行っており、特に面接を通じて教育に対する熱意の確認、建学綱領への同意、本校の目的に理解と協力を約束する人材の確保に努めている（資料 3-2-②-1：金沢工業高等専門学校教員任用基準、資料 3-1-④-2：教員の採用状況）。平成17年度からは若年教員については3年間の任期付教員として採用し、この期間における勤務実績を総合的に審査し、本採用としている（資料 3-2-②-2：学校法人金沢工業大学任期付教員規程）。

金沢工業高等専門学校教員任用基準

○金沢工業高等専門学校教員任用基準

(昭和 61 年 4 月 1 日施行)

改正 平成 14 年 4 月 1 日 平成 19 年 4 月 1 日
平成 20 年 4 月 1 日

第 1 条 金沢工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の任用については、この基準の定めるところによる。

第 2 条 本校の教員となる者は、学校法人金沢工業大学建学綱領（昭和 40 年 2 月）に定める建学の精神を理解するとともに、その継承、実践に努めなければならない。

第 3 条 本校の教員となる者は、社会の規範たる高潔な人格と豊かな識見を併せ持つとともに、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有していなければならない。

第 4 条 本校の教授となることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- (2) 学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業績についての実績を有する者
- (3) 大学（短期大学を含む、以下同じ。）又は高等専門学校において教授の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者
- (4) 大学又は高等専門学校において、准教授又は専任講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）があり、その在職年数が 3 年を経過した者
- (5) 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し技術に関する業務についての実績を有する者（以下「研究所等の在職経験者等」という。）、又は特定の分野について特に優れた知識及び経験を有する者であって、次の要件のいずれかを満たす者
 - イ 査読ある論文又は報告等が 3 編以上あり、そのうち 1 編が過去 5 年以内に公開したものであること。
 - ロ 発明、特許、発見又は設計、考案等について、2 以上の優れた実績を有すること。
 - ハ 教育、研究、技術、学事運営等について博士の学位を有する者と同等以上の知識、能力又は 8 年以上の経験年数を有すること。
- (6) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第 5 条 本校の准教授となることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 前条により本校の教授となることができる者
- (2) 大学又は高等専門学校において、助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）があり、その在職年数が 3 年を経過した者
- (3) 修士の学位又は学位規則第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- (4) 研究所等の在職経験者等、又は特定の分野について優れた知識及び経験を有する者であって、

次の要件のいずれかを満たす者

イ 査読ある論文又は報告等が2編以上あり、そのうち1編が過去5年以内に公開したものであること。

ロ 発明、特許、発見又は設計、考案等について、優れた実績を有すること。

ハ 教育、研究、技術、学事運営等について、修士の学位を有する者と同等以上の知識、能力又は5年以上の経験年数を有すること。

(5) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第6条 本校の講師となることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 第4条により本校の教授となることができる者又は前条により本校の准教授となることができる者

(2) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴があり、その在職年数が5年を経過した者

(3) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第7条 本校の助教となることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 第4条により本校の教授となることができる者又は第5条により本校の准教授となることができる者

(2) 修士の学位（大学の学部について修業年限を6年とする課程を修了した者については学士の学位）を有する者

(3) 研究所等の在職経験者等、又は特定の分野について知識及び経験を有する者であって、次の要件のいずれかを満たす者

イ 査読ある論文又は報告等があること。

ロ 発明、特許、発見又は設計、考案等について、実績を有すること。

ハ 教育、研究、技術、学事運営等について、修士の学位を有する者に相当する知識、能力又は3年以上の経験年数を有すること。

第8条 本校の助手となることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学士若しくは短期大学士の学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者

(2) 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

附 則

- 1 この基準は昭和61年4月1日より施行する。
- 2 この基準は平成14年4月1日改正し、即日施行する。
- 3 この基準は、平成19年4月1日から改正施行する。
- 4 この規程は、平成20年4月1日から改正施行する。

（出典 学校法人金沢工業大学規則集）

学校法人金沢工業大学任期付教員規程

○学校法人金沢工業大学任期付教員規程

(平成14年4月1日施行)

改正 平成16年4月1日 平成19年4月1日
平成23年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、学校法人金沢工業大学管理規則第7条第2項第1号に定める任期付教員の任用等について、大学の教員等の任期に関する法律(平成9年法律第82号。以下「法」という。)に基づき、必要な事項を定める。

(任期を定める所屬等)

第2条 法第4条第1項第1号乃至第3号により、任期を定めて任用する教員の所屬、職名、任期及び再任に関する事項は、別表のとおりとする。

(雇用契約)

第3条 前条に基づき任用を行う場合には、学校法人金沢工業大学と当該任用される者との間で任期を定めた雇用契約を交わすものとする。

(業績審査)

第4条 再任用に当たっては、当該教員の任期中の業績審査を行うものとする。

2 前項の業績審査は、次の各号に掲げる事項について行うものとする。

- (1) 教育活動に関する事項
- (2) 研究活動に関する事項
- (3) 学校法人金沢工業大学の管理運営、社会への貢献等に関する事項

(給与)

第5条 任期付教員の給与は年俸制とし、その額は任期付教員の給与基準の定めるところによる。

(雑則)

第6条 この規程で定めるもののほか、必要な事項は人事委員会でこれを定める。

附 則

- 1 この規程は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成16年4月1日改正施行する。
- 3 この規程は、平成19年4月1日から改正施行する。
- 4 この規程は、平成23年4月1日から改正施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

教員の昇任については昇任基準を定めている（資料 3-2-②-3：金沢工業高等専門学校教員昇任基準）。その上で校長が教員に求めている最も重要な評価基準は「教育に対する高い情熱の維持」にあるため、教員の服務「金沢工業高等専門学校教員の服務について」を定め、総合的に判断している（資料 3-2-②-4：教員の昇格状況）。任用及び昇任については、いずれも校長が原案を作成し学園人事委員会及び理事会の議を経て決定している。

資料 3-2-②-3

金沢工業高等専門学校教員昇任基準

○金沢工業高等専門学校教員昇任基準

(昭和 61 年 4 月 1 日施行)

改正 平成 19 年 4 月 1 日 平成 20 年 4 月 1 日

第 1 条 金沢工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の昇任については、この基準の定めるところによる。

第 2 条 本校の教員が講師、准教授又は教授に昇任するための審査は、対象となる教員の教育若しくは研究に関する実績について次の各号のいずれかの評価をもって行うものとする。

- (1) 公刊された著書、論文、報告等
- (2) 発明、特許、発見又は設計、考案等
- (3) 教育、研究、技術、学事運営等

2 前項第 1 号に定める著書は、論文 2 編に相当するものとする。

第 3 条 准教授又は講師から教授になることができる者は、前条に定める審査によって次の各号のいずれかに該当する評価を得た者とする。ただし、審査の対象者が講師であるときは、現職となって 3 年を経過していなければならない。

- (1) 前条第 1 項第 1 号によるときは、査読ある論文又は報告等を 3 編以上公刊し、そのうちの 1 編が過去 5 年以内に公刊したものであること。
- (2) 前条第 1 項第 2 号によるときは、2 以上の優れた実績を有すること。
- (3) 前条第 1 項第 3 号によるときは、博士の学位を有する者と同等以上の知識、能力又は 8 年以上の経験年数を有すること。

第 4 条 講師から准教授になることができる者若しくは助教から講師又は准教授になることができる者は、現職となって 2 年を経過し、かつ、次のいずれかの評価を得た者とする。

- (1) 第 2 条第 1 項第 1 号によるときは、査読ある論文又は報告等を 2 編以上公刊し、そのうち 1 編が過去 5 年以内に公刊したものであること。
- (2) 第 2 条第 1 項第 2 号によるときは、優れた実績を有すること。
- (3) 第 2 条第 1 項第 3 号によるときは、修士の学位を有する者と同等以上の知識、能力又は 2 年以上の経験年数を有すること。

第 5 条 本校の教員が現職において博士の学位を取得したときは、この基準の規定にかかわらず、当該教員を昇任させることができる。

附 則

- 1 この基準は昭和 61 年 4 月 1 日より施行する。
- 2 この基準は、平成 19 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 3 この基準は、平成 20 年 4 月 1 日から改正施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

教員の昇格状況

年度	氏名	昇格付	昇格時期	備考
平成18年度	佐伯 昭彦	教授	平成18年4月	在位10年、学位取得
平成21年度	大原 しのぶ	教授	平成21年4月	在任8年
	D. ゲイロード	教授	平成21年4月	在任7年
	南出 章幸	教授	平成21年4月	在任5年
	古屋 栄彦	教授	平成21年4月	在任5年
	伊藤 恒平	教授	平成21年4月	在任3年、本採用
	松下 臣仁	准教授	平成21年4月	在任5年
	宮野 純光	准教授	平成21年4月	在任4年
	B. ゲイロード	准教授	平成21年4月	在任6年
平成22年度	坂倉 忠和	准教授	平成21年4月	在任6年
	土地 邦生	教授	平成22年4月	在任5年、学位取得
	松本 昇久	准教授	平成22年4月	在任3年、本採用
	金井 亮	准教授	平成22年4月	在任3年、本採用、博士
平成23年度	小坂 崇之	准教授	平成22年4月	在任3年、本採用、博士
	原 孝美	教授	平成23年4月	在任10年
	元木 光雄	教授	平成23年4月	在任3年、本採用、博士
	大崎 富雄	教授	平成23年4月	在任14年
	木原 均	准教授	平成23年9月	在任3年、本採用、博士
	ハヤト・オガワ	講師	平成23年9月	在籍3年、任期付、学士
	B. オグントインボ	講師	平成24年3月	在籍3年、任期付、学士
山口 真史	講師	平成24年3月	在籍3年、本採用、学士	
平成24年度	S. ロバート	講師	平成24年5月	在籍3年、任期付、学士

(出典 人事委員会資料)

教員の任用は常勤を原則としているが、「Ⅱ 目的」を鑑みて、実技科目を中心に企業でのものづくり経験者などを非常勤講師として任用している。非常勤講師は、常勤教員の基準に準じており、校長が面接を行い確認している。

(分析結果とその根拠理由)

教員の任用と昇格については適切な基準を定め、規程に従いそれぞれ校長が原案を作成し学園人事委員会及び理事会の議を経て決定しており、公正かつ適切に審査されているといえる。

観点 3-3-①： 学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育活動を展開するに必要な事務的、技術的支援の体制は、高専事務局と学園が設置運営する法人本部、教育支援機構及び産学連携機構によって構築されており、各職員は本校及び金沢工業大学の運営ならびに教育研究活動の支援を行っている(資料 3-3-①-1：管理規則抜粋、資料 3-3-①-2：事務分掌規程抜粋)。

資料 3-3-①-1

管理規則抜粋

○学校法人金沢工業大学管理規則

(昭和 34 年 4 月 1 日施行)

改正	昭和40年4月20日	昭和42年4月1日
	昭和50年12月1日	昭和53年12月1日
	昭和58年6月1日	昭和60年4月1日
	昭和61年4月1日	昭和61年12月20日
	平成4年4月1日	平成6年6月1日
	平成7年4月1日	平成7年6月1日
	平成12年6月1日	平成13年4月1日
	平成15年4月1日	平成15年8月1日
	平成16年4月1日	平成17年4月1日
	平成18年2月1日	平成18年4月1日
	平成18年12月1日	平成19年4月1日
	平成19年6月1日	平成20年4月1日
	平成21年4月1日	平成22年4月1日
	平成22年6月1日	平成22年9月1日
	平成23年4月1日	平成23年10月17日
	平成23年12月1日	平成24年4月1日

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規則は、学校法人金沢工業大学(以下「本法人」という。)の管理運営の基本的事項を定め、本法人が設置する金沢工業大学(以下「大学」という。)、金沢工業高等専門学校(以下「高専」という。)、法人本部及びその他の機関の円滑かつ適正な管理、運営に資することを目的とする。

第 2 章 機関

(議決機関)

第 2 条 本法人に議決機関たる次の会議を置く。

(1) 理事会

学校法人金沢工業大学寄附行為(以下「寄附行為」という。)に規定する議案の議決を行うため毎年 3 月、5 月、10 月、12 月に定例会議を開催する。ただし、緊急を要する案件の生じたときは、随時、臨時の会議を開催する。

(2) 常任理事会

学校法人金沢工業大学寄附行為細則(以下「寄附行為細則」という。)に規定する議案の審議及び本法人の通常業務の議決を行うため毎月会議を開催する。ただし、緊急を要する案件の生じたときは、随時、臨時の会議を開催する。

(3) 人事委員会

寄附行為細則に規定する本法人の人事に関する業務を審議決定するため毎月会議を開催する。ただし、緊急を要する案件の生じたときは、随時、臨時の会議を開催する。

(審議機関)

第 3 条 本法人に審議機関たる次の会議を置く。

(1) 役員選考委員会

寄附行為細則に規定する本法人の役員及び評議員並びに重要人事の選考を審議するため随時会議を開催し、理事会に上申する。

(2) 予算編成審議会

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

事務分掌規程抜粋

○事務分掌規程

(昭和 34 年 4 月 1 日施行)

改正	昭和36年 4 月 1 日	昭和40年 4 月20日
	昭和42年 4 月 1 日	昭和50年12月 1 日
	昭和53年12月 1 日	昭和57年 6 月 1 日
	昭和58年 6 月 1 日	昭和61年 4 月 1 日
	平成 4 年 4 月 1 日	平成 6 年 6 月 1 日
	平成13年 4 月 1 日	平成15年 4 月 1 日
	平成15年 8 月 1 日	平成16年 4 月 1 日
	平成18年 4 月 1 日	平成20年 4 月 1 日
	平成21年 4 月 1 日	平成22年 6 月 1 日
	平成22年 9 月 1 日	平成23年 4 月 1 日
	平成23年12月 1 日	平成24年 4 月 1 日

第 1 条 学校法人金沢工業大学管理規則第 32 条に定める各部局、部、課等の事務分掌は、この規程の定めるところによる。

第 2 条 法人本部

大学、高专における教育、研究の充実発展と円滑な法人運営の実施を目的とする。

＜企画部の基本業務＞

- (1) 学生募集活動の戦略立案と推進に関する業務
 - (2) 広報活動に関する業務
 - (3) マーケティングに関する業務
 - (4) 顧客満足度向上に関する業務
 - (5) 国際交流に関する業務
- ③ CS室においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 日本経営品質賞への対応に関する事項
 - (2) 学園行動規範に基づく点検、評価等に関する事項
 - (3) 学生、教職員等へのアンケートに関する事項
 - (4) 他大学、組織等の活動にかかわる情報収集、分析等に関する事項
- ④ 広報課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生募集活動の企画、実施等に関する事項
 - (2) 市場動向調査、分析等のマーケティングに関する事項
 - (3) 広告媒体による広報活動の企画、実施等に関する事項
 - (4) 広報印刷物の企画、編集、発行等に関する事項
 - (5) 広報にかかわるイベントの企画、開催等に関する事項
 - (6) 報道機関等の外部機関や諸団体への対応に関する事項
 - (7) 校章、記章、施設表示等のデザイン及び字体などの管理に関する事項
- ⑤ 国際交流室においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 外国との学術、研究及び文化交流に関する事項
 - (2) 留学、語学研修等の学生交流にかかわる支援、指導等に関する事項

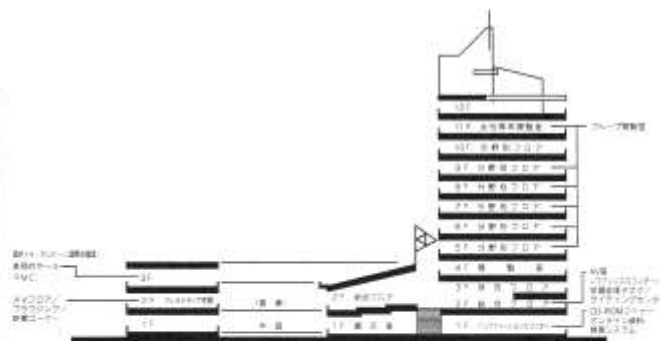
(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

事務職員は高専事務局に6名、法人本部に52名を配置し、技術職員等として教育支援機構に技師33名、大学生のSA10名、を配置し、教育活動を支援している。

ライブラリーセンター（図書館）にサブジェクトライブラリアン（SL）を1名配置し、蔵書の企画をはじめ、図書の探し方や学習の仕方など、学生の様々な相談に対応している（資料3-3-①-3：ライブラリーセンター）。

資料3-3-①-3

ライブラリーセンター



ライブラリーセンター（LC）では予習や復習、またレポート課題など課外学習を充実するため、約55万冊の図書情報をはじめ、CD-ROMやDVD、電子ジャーナルや学術情報データベースなどデジタル情報も準備している。また、求める情報がうまく見つからないときは、学習支援デスクを訪ねてみるとよい。各学科の教員が、サブジェクトライブラリアン（SL）となって待っている。その他、情報検索の講習会をはじめ、専門を学ぶ上で重要となる専門基礎科目の支援講座や文章作成講座などを開催し、サポートしている。

■開館時間
 月曜日～金曜日 ……8：30～22：00
 学生休業中 ……8：30～17：00
 土曜日 ……8：30～17：00
 日・祝日 ……10：00～17：00
 ※開館日程は、ホームページで確認してほしい。

インフォメーションカウンター 1F

総合案内や各種受付窓口となっている。展示室やAV室、グループ閲覧室などの館内施設を利用する場合は、ここで申し込むことにより利用できる。

総合フロア 2F

一般的な教養図書や、基礎的な教育・研究に対応する図書が約3万冊ある。放送大学の教材もある。

レファレンスカウンター/学習支援デスク/ライティングセンター 2F

SLが、各種学習相談や問い合わせに答えている。ライティングセンターでは、文章表現力の向上を支援している。

検索コーナー 2F

LCで利用できる各種情報を検索できるコンピュータを設置してある。なお、使用後は整理整頓を心掛けてほしい。

CD-ROMコーナー 2F

CD-ROMやDVDなどの電子媒体とそれを見学するコンピュータを設置してある。貸出可能なものもあるので、詳しくはレファレンスカウンターに問い合わせしてほしい。

資格・就職コーナー 2F

各種資格試験や検定試験の参考書・問題集、また就職活動の参考になる図書が数多く置いてある。

ブラウジング/新聞コーナー 2F

気軽に閲覧できる趣味・娯楽・教養雑誌などがある。また、全国紙や北海道から沖縄までの全国の地方紙など70余紙を閲覧することができる。

マルチメディア考房/AVフロア 2F

本誌134ページ参照

PMC(ポピュラー・ミュージック・コレクション) 3F

本誌135ページ参照

研究フロア 3F

各専門分野における国内外の学術雑誌が併架されている。自分の興味ある分野や関連する研究テーマの動向調査や、論文作成の際に役立ててほしい。また、LCではWeb上で利用できる電子ジャーナル・学術情報データベースをLCポータル上で提供している。

分野別フロア 5F～10F

各専門分野の図書が各フロアに併架してある。各フロアにはグループ閲覧室も設けられている。

5階	情報工學系、経営管理工學系
6階	電気工學系、電子・通信工學系
7階	機械工學系、資源・エネルギー工學系
8階	化学応用系、建設工學系、材料工學・加工工學系
9階	環境・都市工學系、建築計画・デザイン系
10階	化学・バイオ系、生命・心理系

自習室(7・102) 1F

7号館1階の自習室は、365日24時間利用することができる。ただし、1～3年生の利用は21時まで。入室には終日利用者カード(学生証)が必要。室内には、情報コンセントも設置されている。なお使用後は、整理整頓に心掛けてほしい。

(出典 学生便覧 2012 P.136)

(分析結果とその根拠理由)

本校の事務職員は高専事務局の6名と少人数であるが、学園の事務職員、技術職員、大学生のTA・SAがおり、適切に配置されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校が教育実践目標として掲げる「英語教育のさらなる向上」に向けて、ネイティブ・スピーカー教員の配置が進み、15名程度の少人数クラスの英語教育の実現に加え、近年は専門科目の指導についてもネイティブ・スピーカー教員による授業の充実に力を入れている。

教育活動の評価にKTC教育評価委員会が中心となって定期的な各種アンケートを行い、教育改善提案箱と専用メールアドレスによる学生からの投稿内容や、教員自らが提出する「教育改善への取組と今年度の目標及びその成果」などを基に、積極的な教育活動の改善に取り組んでいる。

加えて、教員の任用・昇任の評価において、平成19年と平成20年に任用・昇任基準に関する規則改訂が行われ、多面的な業績評価の仕組みが整ったことで一層適正な評価が行われるようになった。

(改善を要する点)

非常勤講師に関して、公正に任用を行っているとの自負があるが、非常勤講師のための採用基準の整備が必要と認識している。

夢考房の技術職員は、その技術レベルや経験、興味の幅が非常に広範な高専低学年生から大学生を指導することが求められるが、特に高専低学年を対象に指導する人員配置が必要だと考えている。

(3) 基準3の自己評価の概要

本校では、卒業時に身につけるべき学力や資質・能力の一つに国際性を挙げているため、英語科目には英語圏出身のネイティブ・スピーカーで、英語を母国語としない人たち向けの英語教授法の修士課程を修了した教員を採用することに努めており、1クラス15名程度の少人数教育を行っている。平成20年度からは英語で工学を教えることにも注力し、各学科に2名、3学科合計6名を標準として英語圏出身のネイティブ・スピーカー教員を配置してCLE²プログラムの推進と、工学と英語の連携を行っている。数学及び理科学科においては、工学を専門とする教員が担当することが好ましいと判断し、それぞれに専門科目の教員を配置している。本校は現場技術者養成を目標としていることから、教員の専門性の他に実務的な課題や研究に対するアプローチも必要と認識し、近年は35歳以下の若手ものづくりの実業界経験者を教員バランスを考慮しながら配置している。また、教員の教育研究の質を高めるために、博士号取得を推奨する環境づくりや派遣留学制度、創造技術教育研究所報告書の発行など、様々な取組を行っている。

教育活動の見直しを行う仕組みとして、自己及び外部点検評価の結果を確認し、建学の精神に基づく教育活動の活性化と、なお一層の教育改革の推進に資することを目的としたKTC教育評価委員会を設置している。委員会が行う自己点検評価として、教職員と学生によるKTC総合アンケート、学生によるKTC授業アンケート、新入生による新入生アンケートなどを実施している。また、定期的な各種アンケートの他に、教育改善提案箱と専用メールアドレスを設け、随時学生からの改善提案を受け付けている。これらに教員自らの「教育改善への取組と今年度の目標及びその成果」を加え、校長は教員への指導などを行い、FD研修会の実施や必要な教育活動の改善を組織的に行っている。

教員の任用と昇格については適切な基準を定め、規程に従って校長が原案を作成して学園人事委員会及び理事会の議を経て決定され、公正かつ適切に審査されている。本校の事務職員は6名と少人数ながら、学園は本校と大学の運営を行っていることから、学園法人本部の事務職員、教育支援機構の技術職員、大学生のTA・SAが配置されて運営されており、教育支援体制は充実していると考えている。